



みなみ スマイルプラン

第5期・令和8～12年度
(2026～2030年度)

南区地域福祉保健計画



南区役所・南区社会福祉協議会

みなみスマイルプラン

笑顔でつながる南区のあったかいコミュニティを表しています。
いつまでも笑顔で暮らせる地域を目指します。

南区地域福祉保健計画(みなみスマイルプラン)とは

住民一人ひとりが「健康で安心して笑顔で暮らせるまち」を目指して、
区民の皆さんと区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等が協力して
進めていく活動や取組をまとめた計画です。

南区地域福祉保健計画の
愛称が決まりました。

みなみスマイルプランってなに?

南区ゆかりの
キャラクターたちが
説明するよ



安心・笑顔で支え合うまちをつくるよ

困っている人がいたら、みんなで助け合えるまちにしよう
人のつながりや、やさしい声かけがあると安心して暮らせるね

色々な人が交流して地域の活動に参加するまちをつくるよ

年齢や国が違って、みんなで楽しく過ごせるまちにしよう
おまつりや体操で仲良くなれるよ



地域の活動を支える仕組みをつくるよ

地域の活動がずっと続けられるように、みんなで協力して、
場所やお金のことも考えるよ



みんなの近くにも“スマイル”があるよ



南区長 高澤 和義



このたび、第5期南区地域福祉保健計画を策定しました。この計画は、基本理念「区民の情（こころ）が生きるまち 南区」に基づき、地域の皆様と区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザ等が力を合わせて進めていく活動や取組をまとめたものです。

さらに今回、幅広い世代の区民の皆様からの投票により、計画の愛称が「みなみスマイルプラン」に決まりました。様々な個性や価値観を持つ住民一人ひとりが、人や地域とつながりを持ち、健康で自分らしく、安心して、笑顔で暮らしていくことを目指す思いが込められています。「みなみスマイルプラン」が区民の皆様幅広く浸透し、地域活動や日常の暮らしの合言葉として広がることを願っています。

計画の策定にあたっては、地域の関係機関・団体の皆様へのヒアリングや、「第5期南区地域福祉保健計画策定プロジェクト会議」のご意見をもとに原案をまとめ、さらに区民意見募集により、計画に対する多くのご意見を頂戴しました。貴重な声を聞かせてくださった全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

少子高齢化や人口減少が進む中、地域におけるつながりや支え合いはますます大切になります。この計画のもと、区民の皆様とともにスマイルがあふれる地域づくりに取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

南区社会福祉協議会会長 吉井 肇



昨今の少子高齢化や人口減少だけでなく、震災、風水害などの自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大などを経て、私たちの生活形態、価値観は大きく変化しつつあります。

「誰もが健康で安心して暮らせるまち」を実現するために、身近な地域のつながりや支え合いを進める必要があります。それには誰もが地域に関心を持ち、活動や参加できる機会・場があることがとても大事だと実感しています。

この度、第5期南区地域福祉保健計画を策定いたしました。策定にあたっては、地区社会福祉協議会、区役所、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会が協力して、地域での話し合いを通じて、住民の皆様をはじめ関係機関・団体から様々なご意見を聞かせていただきました。地域のニーズを見据え、これまで行われてきた多様な活動を継続させていくことや、新たな課題の解決に向けた取組を第5期計画に反映させています。

私たち一人ひとりがそれぞれの立場で出来ることを実践して、「共に（トモニー[※]）支え合い、健康で自分らしく、安心して笑顔で暮らしていけるまち」を目指し、南区が掲げる「南の風はあったかい」の言葉にある温かな気持ちを持った区民の皆様と一体となり、支え合いのまちづくりを進めていきたいと思っております。皆様のご協力をお願いいたします。

※トモニーは南区福祉保健活動拠点の愛称です

目次

第1章	南区地域福祉保健計画について	1		
	1 はじめに	1		
	2 福祉保健に関する他計画との関係	2		
	3 南区地域福祉保健計画とは	4		
	4 南区地域福祉保健計画のこれまでの取組	5		
第2章	第5期計画が目指すものと背景	7		
	1 南区を取り巻く状況	7		
	2 第4期計画の振り返りと第5期に向けた課題	16		
	3 第5期計画に向けて	20		
	4 第5期計画が目指すもの	22		
第3章	区全体計画	24		
	1 計画の目標と取組の柱	24		
	2 目標を実現するための取組	26		
	目標1 安心・笑顔で支え合うまちづくり			
	目標2 様々な人が交流し、地域活動に参加するまちづくり			
	目標3 地域活動を支える基盤づくり			
第4章	地区別計画	40		
	1 地区別計画のエリアとスローガン	40		
	2 地区別計画策定までの流れ	41		
	3 地区別計画			
	①お三の宮地区	②太田地区	③太田東部地区	④寿東部地区
	⑤中村地区	⑥蒔田地区	⑦堀ノ内睦町地区	⑧井土ヶ谷地区
	⑨南永田山王台地区	⑩北永田地区	⑪永田みなみ台地区	⑫六ツ川地区
	⑬六ツ川大池地区	⑭本大岡地区	⑮大岡地区	⑯別所地区

第5章

計画の推進体制 74

- 1 第5期計画(区全体計画)推進・第6期計画(区全体計画)策定スケジュール 74
- 2 第5期計画推進の体系図 74
- 3 各会議について 75
- 4 推進状況の振返り 75

第6章

資料編 76

- 1 第5期南区地域福祉保健計画 策定の経緯 76
- 2 第5期南区地域福祉保健計画策定プロジェクト会議 77
- 3 関係機関・団体ヒアリング 78
- 4 地区別計画策定会議 79
- 5 区民意見募集・計画愛称投票 80
- 6 子どもの声を聞く取組 80
- 7 南区区民意識調査 80
- 区役所以外の相談機関 81
- 地域ケアプラザ一覧 82

★★キャラクター紹介★★



みなみスマイルプランキャラクター

みなちゃん

横浜市のキャラクター「ちふくちゃん」の仲間の1人。各地域で地域福祉保健計画の活動が広がり、仲間が増えていくことが、みなちゃんの願いです。



南区マスコットキャラクター

みなっち

桜の花びらをモチーフにした桜の妖精です。



南区社会福祉協議会
マスコットキャラクター

トモニー

「共に」歩み、「共に」福祉を進めていきたいと願って名づけられました。



第1章 南区地域福祉保健計画について

1

はじめに

■ 計画の背景

今後、横浜市の人口は減少し、超高齢社会を迎えることが予測されています。既に一世帯あたり人員が縮小し、ひとり暮らし高齢者世帯が増加しています。また、子どもの出生数が減少傾向にあります。

こうした状況の中で、「8050 問題^{※1}」「ヤングケアラー^{※2}」「子育てニーズの多様化」など、多分野にまたがる複雑化・複合化した生活課題、制度の狭間にある課題を抱える人の存在が顕在化しています。

さらに、家族や地域におけるつながりが徐々に希薄になる中で、様々な困りごとを抱える人が誰にも相談できずに孤立し、問題が深刻化してしまうことも少なくありません。

(※1) 80歳代の親が、引きこもり状態等にある50歳代の子の生活を支えること。

(※2) 本来、大人が担うことが想定されている家族の介護や家事などを子どもが日常的に行うこと。

■ 地域共生社会の実現に向けて

こうした中、「地域共生社会」を実現していくことの重要性が高まっています。

「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のことです。

■ 社会福祉法による地域福祉計画として策定

市町村は、社会福祉法第107条に基づき「地域福祉計画」の策定に努めることとされています。

この計画では、地域住民と関係機関・団体等が協力し、地域の生活課題を明らかにします。そして、より良いまちづくりに向けた目標を共有し、同じ方向を見据えて、それぞれの役割に応じた取組を進めていきます。

※ 地域共生社会の実現に向け、地域課題の解決力の強化のために、平成30年施行の改正社会福祉法により、それまで「任意」であった計画の策定が「努力義務」となりました。

■ 横浜市の地域福祉保健計画の特徴

- 地域福祉に健康づくりの視点(地域保健)も含め、「地域福祉保健計画」として、一体的に策定・推進しています。
- 社会福祉協議会が定めていた「地域福祉活動計画」と一体化した計画です。
- 「市計画」「区計画」「地区別計画」の三層構造とし、住民の主体的な参画を図っています。

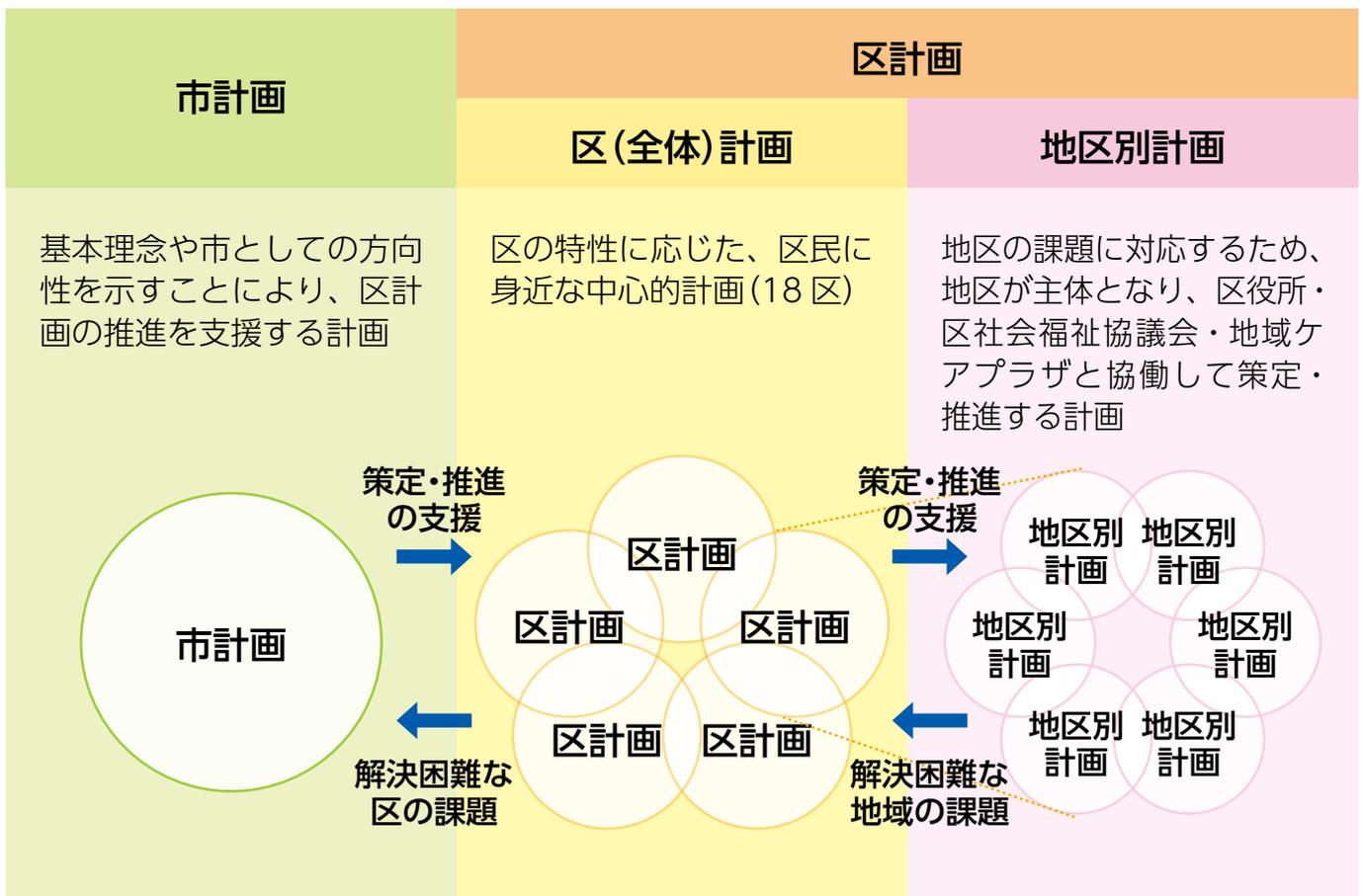
2

福祉保健に関する他計画との関係

市計画と区計画の関係

横浜市の地域福祉保健計画は、市計画、18区ごとの区計画と地区別計画で構成されています。

- 市計画では、計画の推進を通じて目指す目標である「基本理念」と、より具体的な方向性である「目指す姿」、計画の推進にあたっての前提となる考え方である「推進の視点」を示しています。
- 区計画・地区別計画では、市計画の「基本理念」と「目指す姿」、「推進の視点」を踏まえた上で、区の地域特性に応じた方針・取組を示しています。



市計画と福祉保健の分野別計画との関係

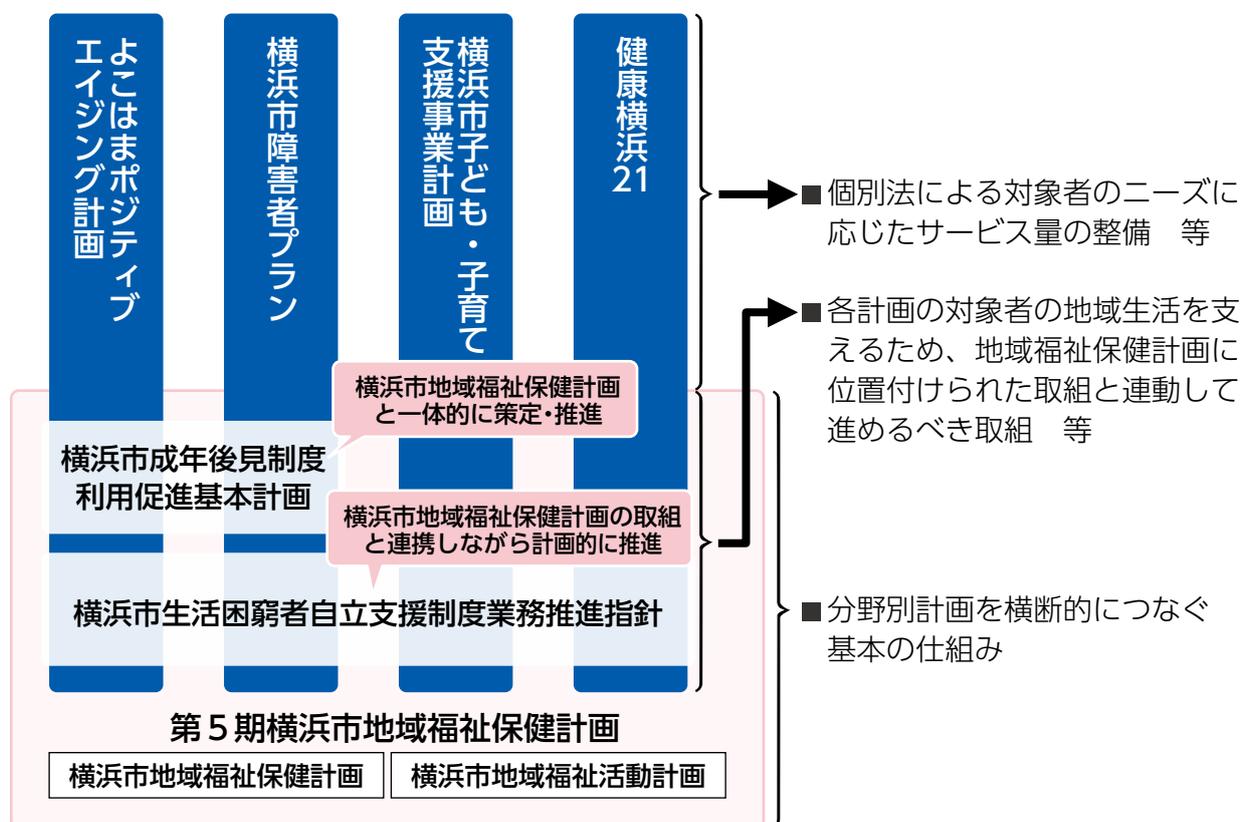
地域福祉保健計画は、地域の視点から高齢者、障害のある人、子ども・若者等の対象者や、保健や健康に関する分野別計画に共通する理念、方針及び取組推進の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。また、住民、事業者及び支援機関が協働する基本的な事項を横断的に示すことで、地域における展開を総括する役割を果たします。

分野別計画に掲げた事業や地域活動支援は、地域福祉保健計画と連動して取組を進めることで対象者の地域生活の充実を図っていきます。

なお、横浜市成年後見制度利用促進基本計画については、市計画の一部として位置づけ、一体的に策定し推進しています。

生活困窮者自立支援制度は、地域福祉を拡充し、まちづくりを進めていく上でも重要な施策であるため、生活困窮者自立支援方策を地域福祉保健計画の中に位置づけて取り組むこと、とされています（市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の策定について（平成 26 年 3 月 27 日社援発 0327 第 13 号））。横浜市では、本制度の基本理念と方向性を計画で示し、より具体的な事項については、「横浜市生活困窮者自立支援制度業務推進指針」に示すことで計画的に推進していきます。

〈主な福祉保健の分野別計画との関係〉



【地域福祉保健計画に関する計画】

- 横浜市自殺対策計画
- 横浜市子どもの貧困対策に関する計画
- 横浜市教育振興基本計画
- 横浜市再犯防止推進計画
- 横浜市人権施策基本指針

3

南区地域福祉保健計画とは

南区地域福祉保健計画は、区内16連合町内会エリア（地区社会福祉協議会エリア）ごとに定める「地区別計画」と、区域全体で定める「区全体計画」で構成されています。

2つの計画の連携により南区全体の取組を推進し、本計画の基本理念である「区民の情（こころ）が生きるまち 南区」の実現を目指します。

地区別計画

その地区に住む住民が主体となり、福祉保健課題を地区特性や資源を活かしながら解決していくために策定・推進する計画です。

区全体計画

区役所、区社会福祉協議会（以下、区社協という。）、地域ケアプラザ（以下、ケアプラザという。）等が中心となり、区域全体の課題を解決していくために策定・推進する計画です。

また、地区単位の取組だけでは解決することができない地域の課題等に対応することで、地域課題を重層的に解決する仕組みづくりを進めます。

基本理念

基本理念や目標を実現するための取組

地区別計画

地区の皆さんが取り組む計画
● 地域特性や資源を活かしながら課題を解決する取組

連携・協働

区全体計画

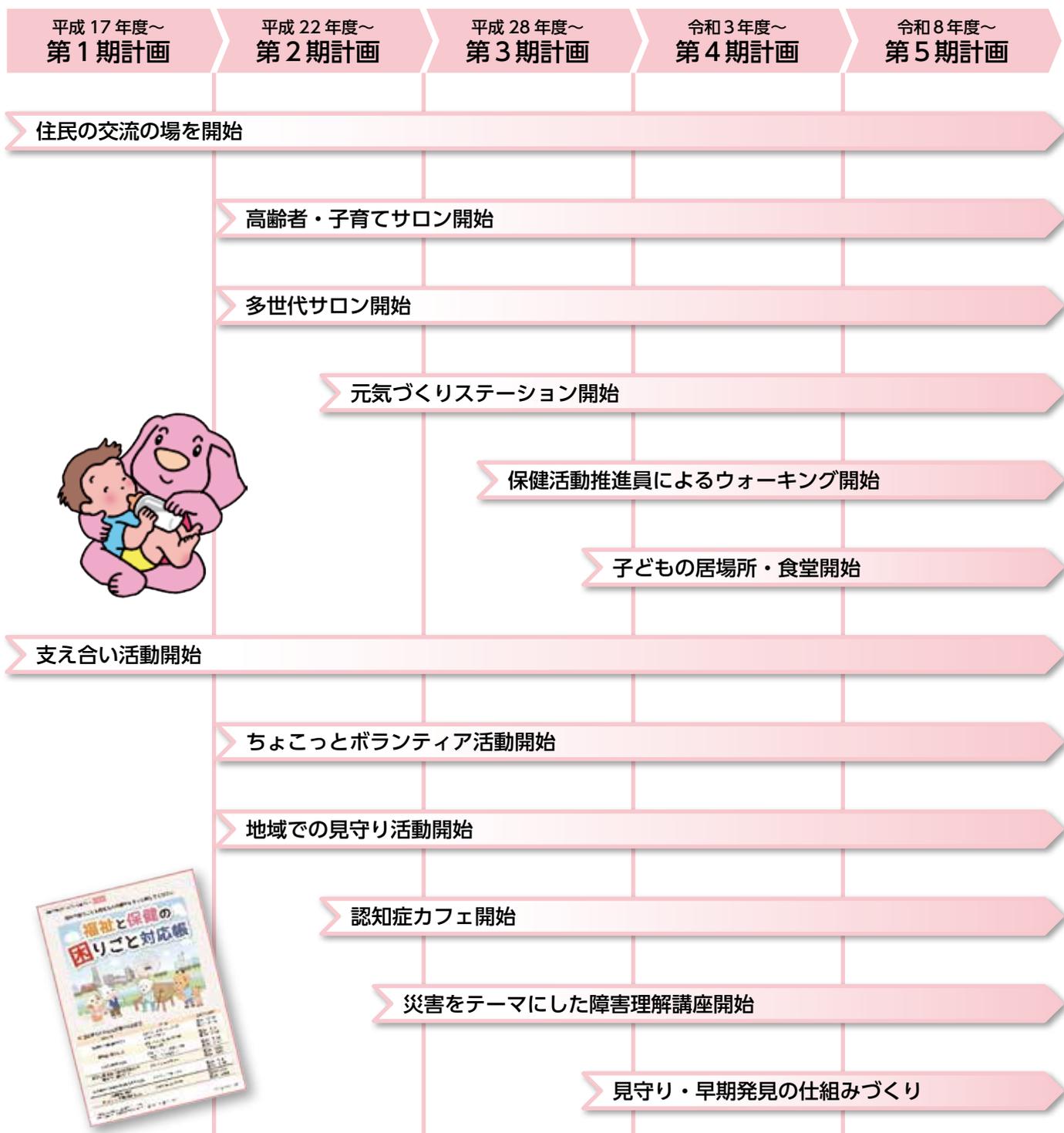
区役所、区社協及びケアプラザが区民と協働で取り組む計画
● 区全体の課題に対する取組

4

南区地域福祉保健計画のこれまでの取組

第1期計画が開始した平成17年度から、「高齢者等の見守り」や「交流の場・サロン活動」、「健康づくり・介護予防」等の取組を、地区に住む住民や地区社会福祉協議会（以下、地区社協という。）、自治会町内会、福祉保健団体、区役所、区社協、ケアプラザ等の関係機関が協力して進めてきました。

南区地域福祉保健計画で実施してきた取組



社会福祉協議会をご存じですか？

社会福祉協議会（通称：社協）は、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作ります」ことを目指し、地域住民や福祉関係者、企業などと協力して地域福祉活動を進めている民間団体です。

神奈川県には「神奈川県社協」、横浜市には「横浜市社協」、そして南区には「南区社協」があり、それぞれの地域で福祉の推進役を担っています。社協は、地域の困りごとを見つけ、解決に向けて取り組む「自主性」と、多くの人々に支えられて活動する「公共性」という二つの特徴を持っています。

地域のつながりを大切にしながら、地域のみなさんと一緒に地域づくりを行っていきます。

ケアプラザってなんだろう？

ケアプラザは、高齢者、子ども、障害のある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として様々な取組を行っている横浜市独自の施設です。

南区には8か所あります。（ケアプラザ一覧82ページ）

どんなところ？

○福祉・保健に関する相談ができます（地域包括支援センター）

介護保険をはじめ、様々な福祉保健相談を総合的に受けています。ケアプラザまで来られない人のために、自宅等への訪問相談も行っています。

○福祉保健に関する事業やイベントを開催しています

健康体操教室や子育てサロン、認知症サポーター養成講座など、様々な事業やイベントを開催しています。（イベントの内容や頻度は、各施設により異なります。）

○地域の皆さんの福祉保健活動や交流の場となっています

ボランティア等の活動をコーディネートしています。

多目的ホールや調理室など、地域の皆さんが利用できる場の提供を行っています。





第2章

第5期計画が目指すものと背景

1

南区を取り巻く状況

横浜市統計データ、関係機関・団体ヒアリング（令和6年5～7月実施）、南区区民意識調査（令和6年5月 南区区政推進課実施）等の結果に基づき、南区の様子をまとめました。

（1）地理的特徴

ア 地形

大岡川・中村川沿いの低地エリアとその周囲を囲むように形成された丘陵エリアから成ります。

イ 交通

主な幹線道路は低地エリアに通っています。

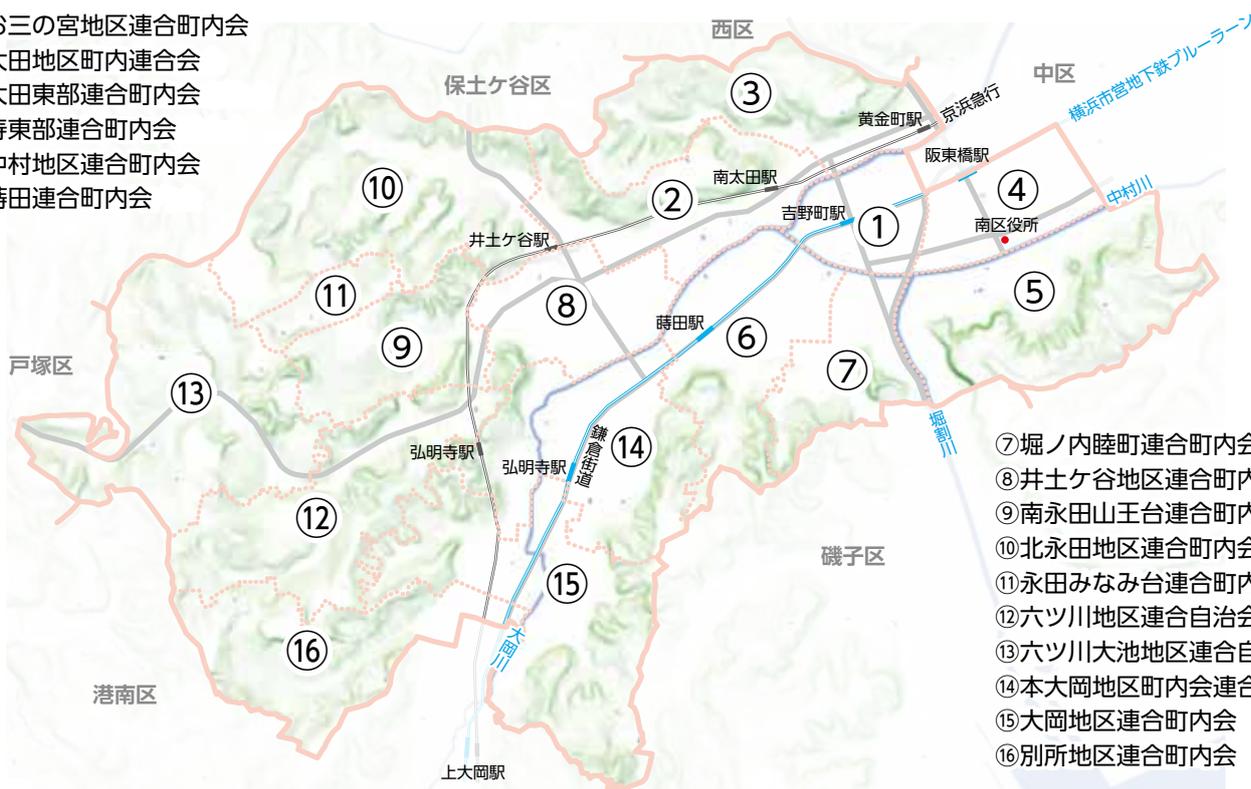
鉄道は市営地下鉄ブルーライン、京浜急行が通っており、横浜駅のほか周辺都市へのアクセスが良い地域です。丘陵エリアにもバス路線がありますが、一部の丘陵エリアでは自宅から交通機関までの高低差が大きく、外出や買い物などが不便な地域もあります。



坂道が多くて外出が大変な人もいますよ

● 地形図・連合町内会区域図

- ①お三の宮地区連合町内会
- ②太田地区町内連合会
- ③太田東部連合町内会
- ④寿東部連合町内会
- ⑤中村地区連合町内会
- ⑥蒔田連合町内会



- ⑦堀ノ内睦町連合町内会
- ⑧井土ヶ谷地区連合町内会
- ⑨南永田山王台連合町内会
- ⑩北永田地区連合町内会
- ⑪永田みなみ台連合町内会
- ⑫六ツ川地区連合自治会
- ⑬六ツ川大池地区連合自治会
- ⑭本大岡地区町内会連合会
- ⑮大岡地区連合町内会
- ⑯別所地区連合町内会

国土地理院ウェブサイト「地理院地図 Vector」をもとに作成

(2) 区民の様子

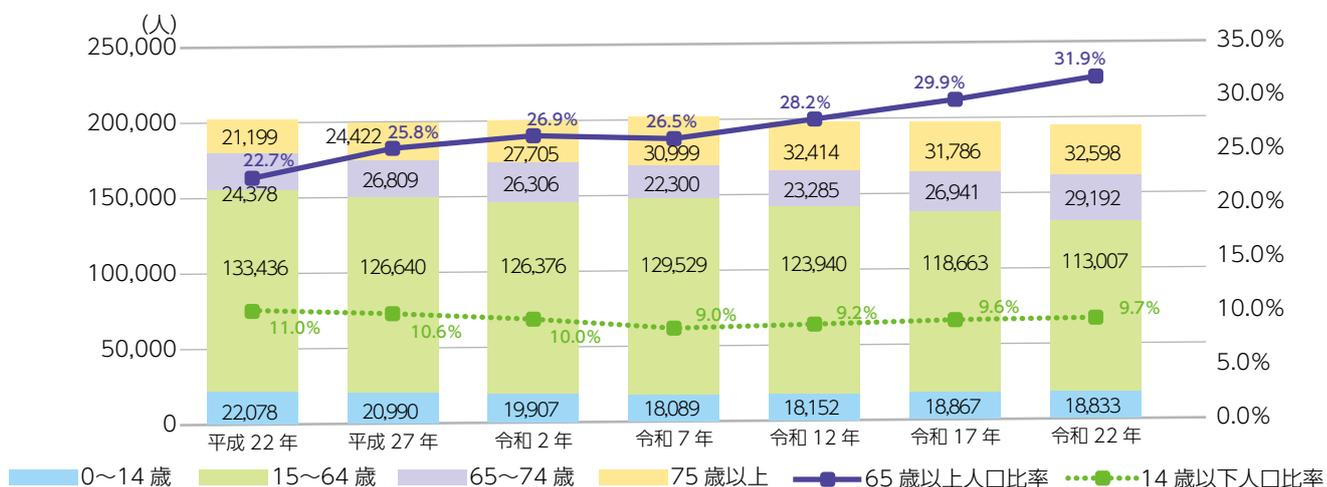
ア 人口

平成25年と令和5年を比較した人口の増減を見ると、南区では、出生と死亡では死亡が多く、転出と転入では転入が多くなっています。出生・死亡による人口減少率を市内で比較すると、18区の中で南区が最も高くなっています。なお、令和5年は社会増加数が急増したことにより、令和4年と比べ人口増となっています（出典：行政区の人口動態の推移）。

令和5年から25年の約20年間に、横浜市全体では4.9%、南区では3.4%の人口減少が予測されています（出典：横浜市将来人口推計 令和2年基準）。

令和7年3月31日現在、南区の老年人口割合は26.5%、18区中9位で南区民の3.8人に1人が65歳以上です（出典：横浜市統計書）。また、令和12年には、3.5人に1人が65歳以上（老年人口割合28.2%）になると予測されています（出典：横浜市将来人口推計 令和2年基準）。

南区の人口変化

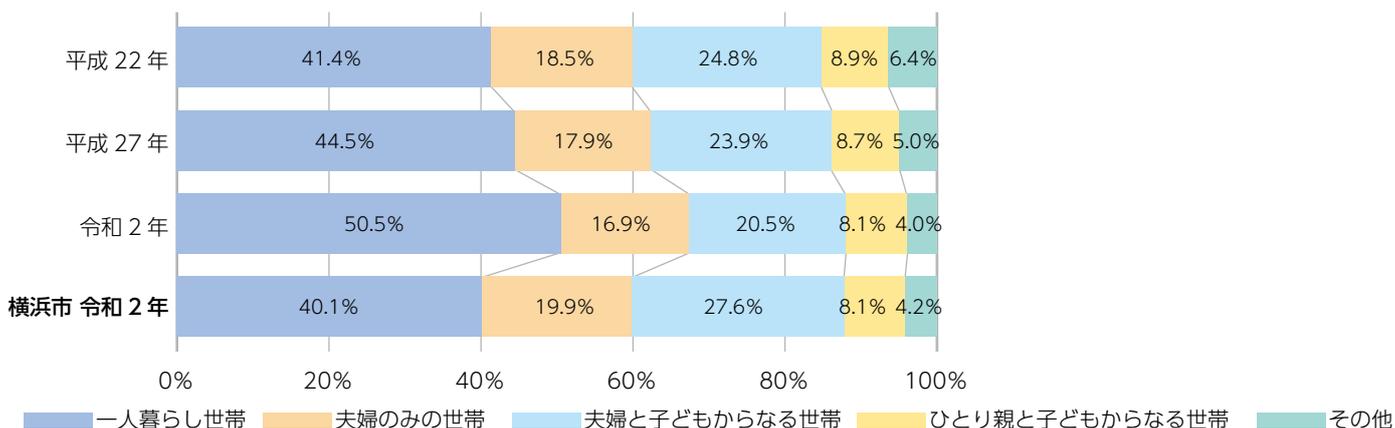


出典：令和7年まで：横浜市統計書（各年3月末現在）第2章5、令和12年以降：横浜市将来人口推計

イ 世帯

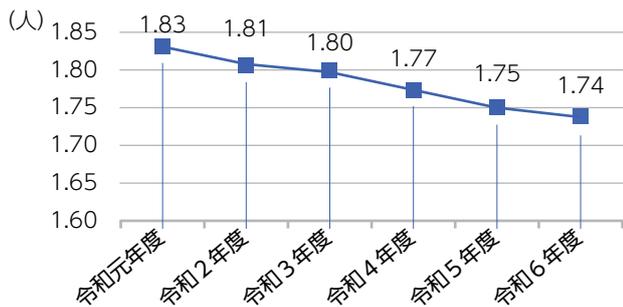
令和2年国勢調査では、一人暮らし世帯数は52,254世帯で、世帯総数の50.5%に達しており、横浜市の平均を大きく上回っています。

世帯状況（南区と横浜市の対比）



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

■南区の世帯平均人数の推移



出典：横浜市統計書 第2章6

令和6年度末（令和7年3月31日）時点の1世帯あたりの人数は平均1.74人で、年々減少しています（出典：横浜市統計書）。



ウ 子ども

南区の出生数は令和元年は1,236人でしたが、令和6年は1,027人となっており、年度ごとの増減はありますが、全体的には減少傾向にあります。

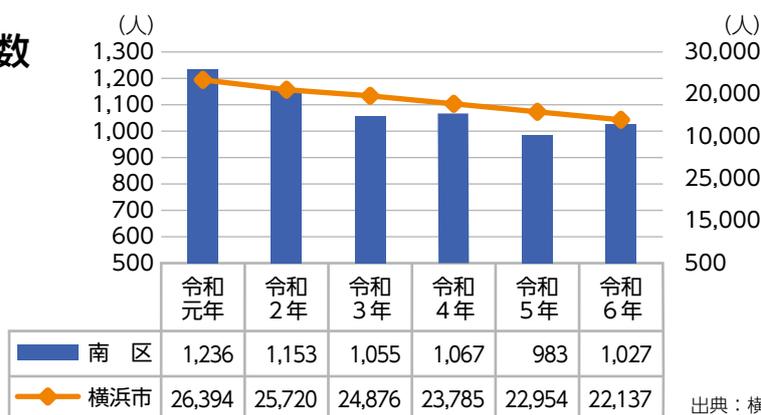
区内では、ひとり親家庭^{※1}、外国につながる家庭^{※2}、経済的困窮のある家庭^{※3}など、様々な事情により多くの家庭が支援を必要としています。

（※1）子どものいる世帯のうちひとり親世帯が占める割合について、南区は市内で2位（令和2年国勢調査から算出）。

（※2）区内の外国人児童・生徒数は、平成27年から令和6年までの10年間で2.60倍に増加。特に令和4年から令和6年の3年間で、28.1%と急激に増加（出典：令和6年度市立学校現況）。

（※3）13ページ「キ 生活保護」を参照。

■出生数



出典：横浜市統計書 第2章8（各年1月1日～12月31日）

コラム 03

探してみよう！あなたの身近な子どもの居場所

南区では、30団体（令和6年12月時点）が「子どもが居場所につながり、地域で見守りはぐくむ地域づくり」を目指して、食事提供や学習支援等を通じた活動をしています。

区内・隣接区の子どもの居場所をまとめた「子どもの居場所マップ」を作成し、区内小中学校等に配布するほか、区全体を5エリアに分けたエリア会議を開催し、活動上の課題の共有や、解決に向けた検討など、団体の強みを活かした連携が進んでいます。

今後は、担い手不足への対応や、自治会・町内会との連携について検討し、取り組んでいく予定です。



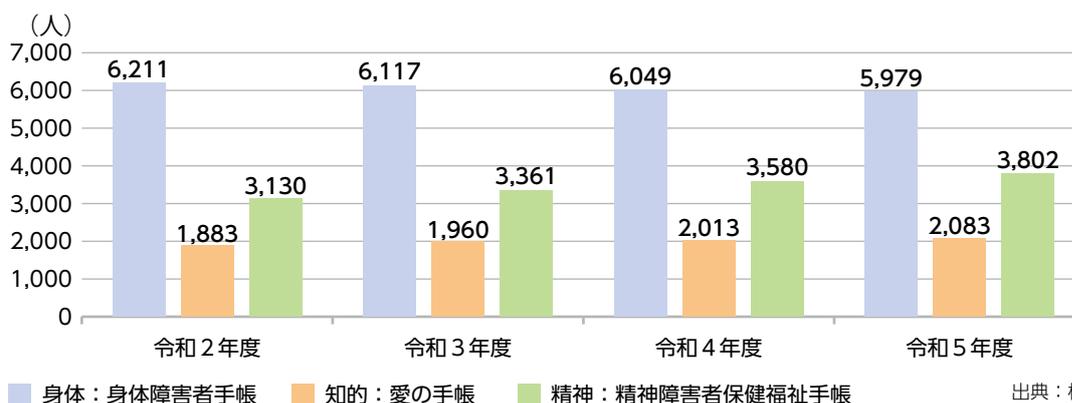
オ 障害者

身体障害者手帳の所持者は、6,000人前後で推移しています。愛の手帳所持者（知的障害者）は微増傾向、精神障害者等（※）の数は近年急増傾向にあります。

どの障害も、総人口に占める手帳所持者の割合は市全体よりも高い状況です。

※精神疾患のある人は、手帳を所持していなくても福祉サービスを利用できる場合があるため、福祉保健センターに相談している精神疾患のある人（精神障害者等）は、精神障害者保健福祉手帳所持者よりさらに多く存在します。

南区障害別手帳所持者数



令和6年度区民意識調査では、58.5%が「日常生活で障害児・者と関わる機会がない」と回答しました。

- 小学生向けの多様性受入れの啓発出前講座や、地域のイベント等により地域住民と交流しています。
- 障害のある人は、地域から声をかけてもらえると地域のイベント等に参加しやすくなります。
(南区障がい児者団体連絡会)

関係機関・団体ヒアリングより

コラム

05

誰もが安心して暮らせるまちづくり ～障害者週間を通じた地域の取組～

南区には、障害のある人が日中通う施設が約30か所あります。これらの施設の利用者は、それぞれが自分のペースで、いきいきと社会に参加しています。仕事やスポーツ、芸術など、活躍の場は年々広がり、地域とのつながりも深まっています。

南区では、毎年12月の「障害者週間」にあわせて、関係機関と協力し、講演会やスポーツ・レクリエーションを通じた交流イベント、自主製品の販売会などを開催しています。こうした取組は、障害について知るきっかけとなり、互いを理解し合う大切な場となっています。

障害のある人もない人も、安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、これからもさまざまな取組を進めていきます。



カ 外国人

令和6年度末（令和7年3月31日）時点で、南区の人口全体に占める外国人住民登録人口の割合は6.8%で、およそ100人中約7人は外国人となっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大が見られた令和2～3年度は減少しましたが、令和4年度から急増しています。

国別では、中国が51.9%と過半数を占め、次いで韓国9.6%、フィリピン8.3%、ベトナム7.3%と続きます（出典：横浜市統計書）。



一方で、令和6年度区民意識調査では、55.2%が「日常生活で外国人と関わる機会がない」と回答しました。

- 外国籍の人と地域住民との相互理解のための茶話会を必要に応じて町内会に提案、支援しています。
- 「一緒に良い町にしていこう」といった前向きな声かけや、心の壁を取り払い歩み寄る姿勢が大切です。
(みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ)

関係機関・団体ヒアリングより

コラム

06

『ともに よりよい街をつくるため』～多文化共生のまちづくり～

南区は18区の中で外国人人口が3番目に多く、特に寿東部地区などの外国人が多く住む地域では、日本人住民と外国人住民が互いに仲良く、安心して暮らせるよう、様々な取組が進められています。

例えば、生活習慣の違いから生じるトラブルを防ぐため、ごみの分け方や災害時の行動、日本でのマナーなどを分かりやすく伝える「生活ガイダンス」を実施しています。

さらに、地域イベントの案内を外国語に翻訳して回覧したり、通訳を派遣したりすることで、外国人住民が地域活動に参加しやすくなる工夫もされています。昨年開催されたモルック大会には外国人チームも参加し、地域住民との楽しい交流が生まれました。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジは、こうした自治会町内会の取組に対して相談や情報提供、通訳・翻訳の派遣などの支援を行っています。

これらの取組を通じて、互いを認め合いながら暮らせる共生のまちづくりを目指しています。



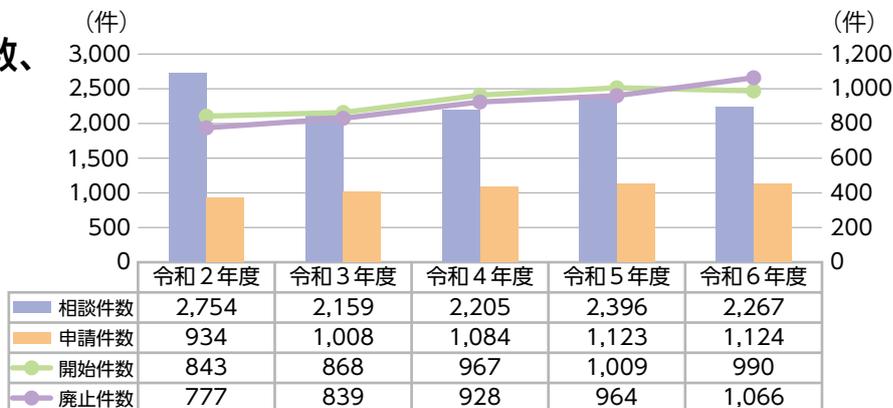
キ 生活保護

生活保護の申請数は、令和5年度は過去最多となり、令和6年度も同程度となりました。申請数・相談件数とも増加傾向にあり、生活に困っている人が増えてきています。

生活保護率は、南区は3.69%で、市全体の1.82%を大きく上回っており、中区に次いで市内2位の高さとなっています。(令和7年3月時点)

南区における生活相談件数、生活保護申請・開始・廃止件数の推移

資料：南区役所生活支援課



横浜市では、生活の困りごとに関して、生活保護の相談と生活困窮者自立支援制度に関する相談を、区福祉保健センター生活支援課で一体的に受けています。

ク 健康

南区の平均寿命^{※1}は男女とも市平均より短く、18区中、男性は79.85歳で17位、女性は86.67歳で16位です^{※3}。(令和3年時点)

平均自立期間^{※2}も男女とも市平均より短く、18区中、男性は78.11年で17位、女性は82.86年で16位です^{※3}。(令和3年時点)

令和6年度区民意識調査では、91.2%が「健康に関心がある」と回答しましたが、食事や運動、喫煙等に関する項目については、横浜市が定める目標値^{※3}を下回るものが多く、一層の生活習慣の見直しが必要であることが分かりました。

また国民健康保険加入者向けの健康診断(特定健診)の受診率は、令和5年度は25.3%で、市平均に比べて低い状況です。

(※1) 人が生まれてから死亡するまでの期間の平均、0歳の平均余命

(※2) 日常生活に介護を要しない期間の平均

(※3) 出典:第3期健康横浜21～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～

平均寿命－平均自立期間
＝ 介護が必要な年数
になるよ



南区はつながりのない孤立した単身者が増えています。単身者は健康寿命が短く、認知症になっても早期に医療につながりにくい傾向があります。(南区医師会)

歯科健診受診率が低いので、啓発していく必要があります。(南区歯科医師会)

高齢者、低所得者、単身者が多いため、偏った食生活などの生活課題があります。(南区薬剤師会)

ケ 困りごとの相談

令和6年度区民意識調査では、「自分や家族の生活の事で心配なことや困っていることはありますか」に対する回答は「自分の病気や健康」が49.7%で最も多く、続いて「家族の病気や健康」「生活費や経済的なこと」「自分の将来」となっています。

「悩みや困ったことが起きた時、相談する人や相談する場所」に対する回答は、「家族・親戚」が78.8%と最も多く、次いで「友人・同僚」47.5%、「かかりつけの医療機関」23.2%となっています。「相談する人（場所）は思い当たらない」という回答も7.6%ありました。

健康や介護、お金のことで悩んでいる人が多くいるんだね



もっとみんなが気軽に相談できるようになるといいな

隣近所との関係づくりが大事と思っている人はたくさんいるんだね



困りごとの対応の相談はケアプラザに連絡を入れて対応してもらおうことが多いです。
(民生委員児童委員協議会)

患者さんから診療以外の相談をされて課題をキャッチしたときに相談につなげるようにしていきたいです。(南区歯科医師会)

関係機関・団体ヒアリングより

コ 防災とつながり

令和6年度区民意識調査では、「近所や地域でできる災害への備えとして大切だと思うこと」に対する回答は、「いざという時の声かけや安否確認ができるよう、日頃からの顔の見える関係づくり」が52.4%、「自治会町内会による家庭での備蓄の啓発」が40.8%、「ご近所同士での避難場所(地域防災拠点、福祉避難所、広域避難場所)の確認」が34.2%でした。

隣近所との普段の付き合い方については、「道で会えばあいさつくらいする」「たまに立ち話をする」「困った時に相談したり助け合ったりする」等、近所付き合いがある層は計77.7%でした。一方で、「顔もよく知らない」層は17.4%でした。

サ 地域活動

令和6年度区民意識調査では、地域活動に現在参加していると回答した区民は24.8%で、およそ4分の3は参加していないという結果でした。また、「これから参加したい地域活動」については、「ない」が32.7%、「趣味・教養・スポーツ等のサークル」が23.7%、「自治会町内会の活動」が16.7%、「お祭りや運動会等のイベント」が16.4%でした。

「地域活動により参加しやすくなるために重要なこと」に対する回答は、「活動する曜日や時間が自分の都合に合っていること」「活動場所が近くにあること」「家族・友人等、知っている人と参加できること」が上位となっています。

ご近所同士がもっと仲良くなるには、一緒に楽しい活動ができるといいのかも！



ボランティアセンター

～ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている人の窓口～

南区社会福祉協議会ボランティアセンターは、「ボランティアをしたい人」と「ボランティアを必要としている人」をつなぐ窓口です。

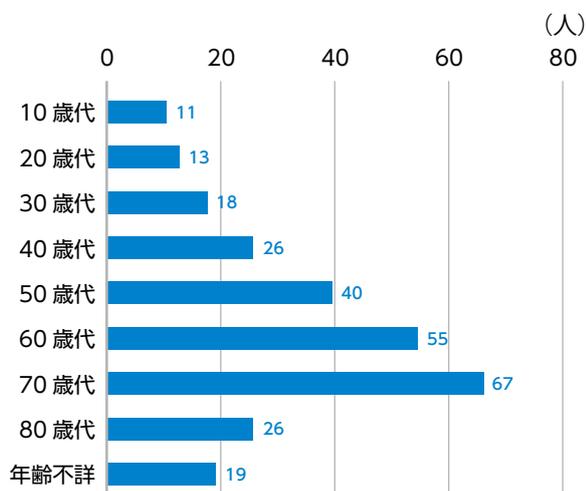
ボランティアをしたい人には、関心のある分野や得意なことを伺いながら、地域の活動をご紹介します。また、ボランティア活動への理解を深め、きっかけをつくるための講座や交流の機会も設けています。

ボランティアを必要としている人には、どのような協力が必要なのかを伺い、活動して下さる人を探します。

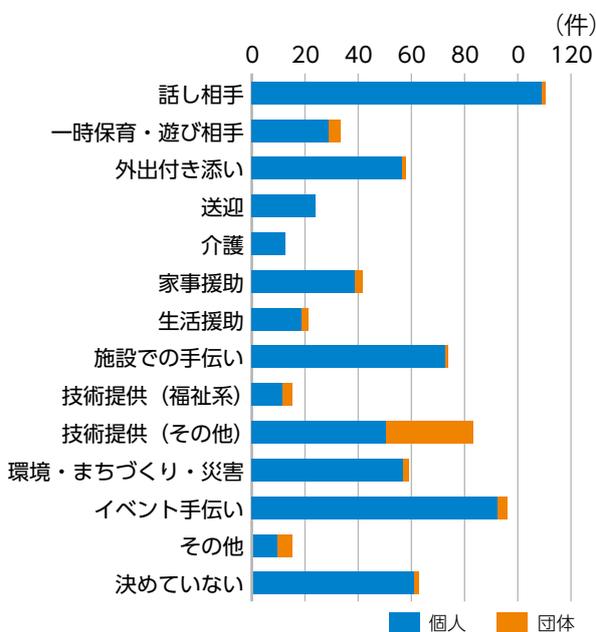
その他、区民の皆さまからの善意の寄付金や物品を地域福祉活動に活かす「善意銀行」を運営しており、区内で活動するボランティア団体や障がい当事者団体などに配分することで、地域の支え合いを応援しています。

私たちは、誰もが自分らしく、安心してボランティア活動に参加できる地域社会の実現を目指しています。誰ひとり取り残さない共生のまちづくりに向けて、ボランティア・市民活動の魅力や意義を発信し、さまざまなかたちで地域のつながりを育んでいます。

■ ボランティア登録者人数



■ ボランティア登録者活動希望内容



シニア層の
ボランティア
登録者が多いね



話し相手や
イベントの
手伝いをや
りたい人が
多いよ

第4期計画における、4つの目標ごとの取組内容と成果、課題をまとめました。

目標1 孤立しがちな人をお互いさまのまなざしで、見守り・支え合いの活動を広げよう
〈取組の柱〉

- 1-1 住民同士の見守り・支え合いの活動の拡大
- 1-2 見守り・早期発見の仕組みづくりの構築

主な取組・成果

🌸 **地域での様々なつながりづくりを通じて、見守り・支え合いの活動を支援しました。**

- ◎認知症の早期対応や相談ができるように、各ケアプラザで認知症サポーター養成講座を実施しました。
- ◎学習支援を行う地域住民と、こども食堂の活動を支援したい企業をつなげることにより、新たなこどもの居場所が立ち上がりました。

🌸 **制度の周知啓発や研修、相談等を通じて、見守り・早期発見の仕組みづくりを行いました。**

- ◎地域での生活困窮者自立支援制度研修や出張生活相談を実施しました。団地事務所、ケアプラザと連携することで、相談希望者が増加し、実際の支援につながりました。
- ◎地域で気軽に相談してもらうために、ケアプラザへアクセスが困難なエリアでの出張相談会や、介護保険等に関する出前講座を開催しました。
- ◎当事者・家族を取り巻く地域住民を通して相談につなぐことを目的に、地域活動の担い手に向けたリーフレット「福祉と保健の困りごと対応帳」を作成し配布しました。

第5期に向けた課題

- ◆複合的な課題を持つ世帯が増えています。民生委員や区役所各課、関係機関等が連携した、分野横断的な支援が求められます。そのため、相談機関等がそれぞれの業務内容を理解して、スムーズに適切な支援につないでいくことや、相談のハードルを下げる必要があります。
- ◆地域に社会的孤立状態の困難を抱える人がいることに気づき、支援につなげられるよう、地域全体で行う見守りについて、引き続き普及啓発していく必要があります。

キーワード

複合的な課題を持つ世帯への多機関協働による支援

目標2 様々な個性や世代の住民が参加・活躍できる機会や場づくりを進めよう

〈取組の柱〉

- 2-1 選択できる多様な参加の場の継続と創出
- 2-2 身近な地域で取り組む健康づくり活動の充実
- 2-3 連携と協働による活動の拡大

主な取組・成果

✿ **新たにつながる場や機会を増やすため、関係機関が連携して講座や交流会の開催等に取り組みました。**

◎障害者施設とケアプラザ共催で、利用者と地域住民による「ポッチャ交流会」を開催しました。

✿ **多文化共生や障害理解の取組を行い、交流活動の場が広がりました。**

◎地域活動の場を通して障害のある人と地域がつながる機会を持ち続けていくことを目的に、「ミニ訪問サンタ」(障害事業所製品を障害のある人が地域活動の場へ届ける活動)を16地区で実施しました。

✿ **健康づくりのために、地域での活動の支援や機会の提供に取り組みました。**

◎フレイル予防のちょい足し(高齢者サロン等のいつもの活動の場で、フレイル(虚弱)予防に向けた取組をプラスする)を推進して介護予防の輪が広がりました。

✿ **様々な機関や団体、企業等と連携し、既存活動の充実、新たな活動の検討を進めることができました。**

◎地域課題の協議体(地域の話し合いの場)に商店や民間企業等、地域の事業者が参加しました。

◎地域住民とスーパーが連携し、買い物が不便な地区での移動販売を開始しました。利便性だけでなく、高齢者の見守りやつながりの場となっています。

第5期に向けた課題

- ◆地域とつながりたい・社会に参加したい障害のある人や外国人、地域貢献活動をしたい企業を地域活動とつなぐことが必要です。
- ◆地域と関わりのない住民が、地域に関心を持ち、気軽に地域活動に参加してもらうための工夫が必要です。
- ◆したがって、コーディネーター役の存在がこれからのキーワードになると考えられます。

キーワード

地域における団体の活動を支えるコーディネート機能の充実・強化

目標3 情報を届けることで地域・活動への関心を高めよう

〈取組の柱〉

- 3-1 地域への関心と「つながり」の大切さを届ける広報活動の推進
- 3-2 必要な人に必要な情報が届く仕組みの構築

主な取組・成果

- ✿ **広報の手段を工夫するとともに、多様な媒体を活用して住民へ地域情報を伝えました。**
 - ◎身近な地域活動情報を誰もが把握して活動につながるができるように、Ayamu（ヨコハマ地域活動サービス検索ナビ）の情報更新作業を積極的に実施しました。
 - ◎ホームページやSNSで、地域活動情報について発信する動きが広がりました。
- ✿ **幅広い世代への情報発信や、情報弱者になりやすい人が情報を受け取りやすくするためのサポートに取り組みました。**
 - ◎ケアプラザで高齢者向けの「スマホ講座」を開催しました。SNSを活用したグループが作られ、情報伝達がスムーズになりました。
 - ◎転入者に向けて外国語版の「南区生活のしおり」を配付しました。生活上の困りごとの解決の一助になりました。

第5期に向けた課題

- ◆地域活動情報の発信元が複数あり、それぞれの特徴などが分かりにくいいため、自分に合った情報を選択するのが難しいという声があります。
- ◆外国人の手続き等においては、言葉の壁があるため、多言語やわかりやすい日本語による情報発信が必要です。
- ◆デジタル技術の活用促進が進む一方で、利用が難しい層へのフォローが欠かせません。
- ◆情報の受け手の視点に立った情報提供の一層の工夫を図る必要があると考えられます。

キーワード

情報の受け手がキャッチしやすい情報発信・内容の工夫

目標4 地域福祉保健の活動の基盤を強くしよう

〈取組の柱〉

- 4-1 様々な機関が連携した地域人材の発掘と育成
- 4-2 地域活動の充実に向けた支援

主な取組・成果

🌸 **誰もが活躍できる仕組みづくりに向け、地域活動の基盤となる人材の発掘・育成に取り組みました。**

- ◎寺子屋みなみ（連続講座）を開催し、新たに活動を始めたい人が地域活動に取り組むきっかけとなりました。
- ◎かいご予防サポーター・認知症キャラバンメイト等の発掘・育成を様々な機関と連携して行い、活躍の場の拡大に取り組みました。

🌸 **福祉・保健活動に取り組みやすい環境づくりとして、助成金等による活動支援、団体・関係機関のつながりづくりを推進しました。**

- ◎子どもの居場所団体交流会を開催し、団体の活動状況を共有しました。さらにエリア別の交流会も行い、区域だけでなく身近な地域での団体のネットワーク強化を図りました。
- ◎移動困難な高齢者の地域活動参加につながるよう、地区社協を対象にタクシー代を助成する制度を設けました。

第5期に向けた課題

- ◆地域活動には「地縁型（地域に根ざした活動）」と「テーマ型（共通の関心や目的による活動）」があります。仲間づくり、人の役に立つ充実感、趣味や特技を活かすなど、幅広い視点で、身近な地域で活動を始めるきっかけを増やすことが必要です。
- ◆活動しやすい環境を整えるためには、関係機関や団体の連携が欠かせません。さらに、取組を着実に進めるために、数年先の目標を具体的に設定することが重要です。

キーワード

**活動のきっかけづくりは地縁だけではなく、
テーマ型・仲間づくり・健康づくり等のアプローチも生かす**

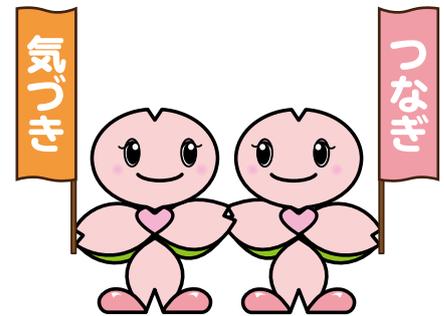
地域でのゆるやかな見守りをつながりづくり

南区では、長年住む住民がいる一方で、転入人口が急増しています。新しい住民は地域とのつながりが薄く、支援につながりにくいという課題があり、これは災害時の課題にもなります。住民同士が助け合える関係を築くには、日頃からあいさつなどの関わるきっかけが必要です。

75歳以上の高齢者人口の増加により、公的な見守りだけでは対応が難しくなっています。障害のある人や子ども、制度の枠に収まらない困窮者など、支援が届きにくい人もいます。

そこで「ゆるやかな見守り」、つまり日常の中でさりげなく気にかけるという見守りの重要性が高まっています。

あらゆる生活の困りごとを、住民一人ひとりが「自分ごと」として考え、お互いさまの気持ちを持つことで、助けを求めたり、受け入れたりする力(地域の受援力)を高めることができます。また、商店や医療機関なども見守りの担い手として期待されています。さらに、困りごとを抱える人を支援につなげる方法を広く知ってもらうことや、支援機関同士の連携も大切です。



多様性の理解と交流

南区には、年齢、性別、国籍、身体的・精神的な状況、宗教的・文化的背景、社会的地位や経済状況など、様々な背景を持つ区民が暮らしています。

こうした多様な住民が地域の仲間としてつながり、互いの生活上の困難を想像し、助け合えるようになるためには、「違いを認め合い、共に生きること」を共通の理解として関係性を育んでいくことが重要です。

さらに、目の前の人を一つの属性で一面的に捉えるのではなく、その人の背景や価値観、社会的な側面などを含め、個人として尊重する姿勢が重要です。まずは交流の機会を増やし、互いを知ることが、共生への第一歩となります。

つながりで健康づくり

令和6年度区民意識調査では、「自身の健康に関心がある」と回答した人が91.2%にのぼり、健康は区民にとって非常に関心の高いテーマであることがわかりました。

適度な運動やバランスの取れた食事、禁煙などの生活習慣に加え、多世代交流や様々な活動への参加など、積極的に「つながり」をつくることで、



心身の健康に良い影響を与えるとされています。

身近な地域で趣味やサークル活動などの地域活動を楽しむ仲間ができることで外出の機会が増え、結果として健康づくりにつながります。

人と人とのつながりが生まれることで、助け合いや「お互いさま」の意識が広がり、思いやりや信頼関係が深まります。その結果、誰もが暮らしやすい地域となり、人々がいきいきと元気に過ごすことで、さらに活動が広がっていくという好循環が生まれます。

こうした「つながり」が健康に良い影響をもたらすことを広く周知し、地域活動への参加を促していくことが求められています。



地域活動で仲間づくり

地域には自治会町内会活動や福祉保健活動からスポーツ等の趣味活動まで、様々な仲間同士で行っている活動があります。

多くの活動団体がある中で、活動をしたい人が、活動の内容、時間や場所等、自分に合う活動を探しやすくなるには、活動と人をつなげるコーディネートの仕組みが必要です。

地域活動の担い手減少は引き続き課題となっています。女性や高齢者の就労人口が増加するなどライフスタイルが変化していく中で、既存の団体は、活動のやり方を変化させたり、再構築したりすることが求められています。団体同士が交流することや、障害のある人・地元企業などが地域活動に参加することによって、地域活動に変化が生まれ、地域の活性化が期待されます。

また、趣味グループ等の参加がきっかけで地域に仲間ができることにより、地域のボランティアや行事等にも参加しやすくなり、地域の担い手と顔を合わす機会が増えることで、将来地域の担い手として活躍する人材になる可能性があります。

情報を届ける工夫

第4期計画期間中の5年間でデジタル技術が進歩し、スマートフォン保有率は90.6%（出典：総務省「令和6年情報通信白書」）となっています。誰もが手軽に様々な情報を得ることができるようになりました。

地域活動においても、団体内の連絡手段としてSNSの活用が広がり、今後は活動内容の発信にも活用したいという声が聞かれるようになりました。

一方で、多くの情報から自分に適しているものを選ぶことは難しく、分かりやすい発信や整理、情報を届ける仕組みを検討する必要があります。このことは、制度や相談等に関する情報においても、地域活動に関する情報においても同様です。

あわせて、外国人や障害のある人等への配慮や、紙媒体での情報が必要な区民への対応など、相手の状況に合わせた発信方法を工夫する必要があります。



(1) 基本理念

区民の情（こころ）が生きるまち 南区

第1期計画から「区民の情（こころ）が生きるまち 南区」を基本理念としています。第5期計画においても、区民一人ひとりの想いや行動を基本に、これを受け継いでいきます。

(2) 5つのキーワードと3つの目標

第4期計画期間中、新型コロナウイルス感染症の影響による生活上の制限が生じる中で、緊急時に、より早く情報を伝えるための手段や、直接会えない状況下でのコミュニケーションをどのように確保するか等、地域での「情報」の重要性が改めて認識されました。

また、情報を届けることはあらゆる取組に共通することから、第5期計画では「情報」を新たに5つめのキーワードとして位置づけ、目標1・2・3それぞれの取組内容に「情報」の要素を取り込みました。

5つのキーワード

つながり

安心

健康

笑顔

情報

目標1 安心・笑顔で支え合うまちづくり

住民、支援機関、関係機関・団体による見守りと連携した支援を行うことにより、孤立しがちな人をつなげる・支える活動が広がっています

目標2 様々な人が交流し、地域活動に参加するまちづくり

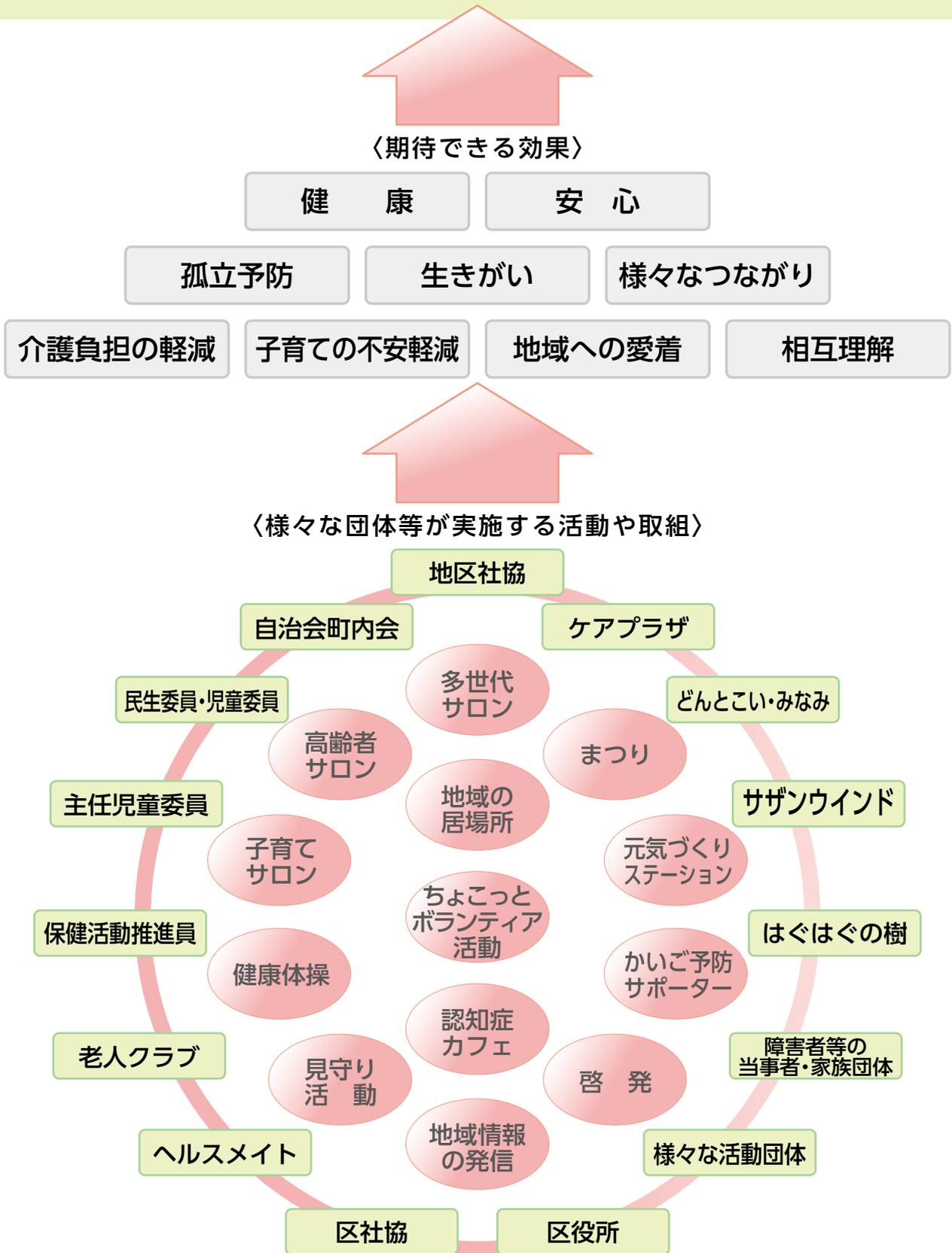
年齢や国籍、障害の有無などに関係なく、ともに地域で交流し、福祉保健や趣味等の地域活動に参加する機会が増えています

目標3 地域活動を支える基盤づくり

地域活動に関する情報を知りたい・活動したいと思った時に、取り組みやすい環境が整えられています

地域の様々な活動が健康で安心して暮らせる 笑顔あふれるまちづくりにつながっています

基本理念の実現





第3章 区全体計画

1

計画の目標と取組の柱

目標

目標 1

安心・笑顔で
支え合う
まちづくり

5年後のまちの姿

住民、支援機関、関係機関・
団体による見守りと連携した
支援を行うことにより、孤立
しがちな人をつなげる・支え
る活動が広がっています

目標 2

様々な人が交流し、
地域活動に参加する
まちづくり

年齢や国籍、障害の有無等に
関係なく、ともに地域で交流
し、福祉保健や趣味等の地域
活動に参加する機会が増えて
います

目標 3

地域活動を支える
基盤づくり

地域活動に関する情報を知り
たい・活動したいと思った時
に、取り組みやすい環境が整
えられています

取組の柱

1-1 地域における見守り・支え合い活動の充実

1-2 困りごとを抱えた人を孤立させないための
仕組みづくり

1-3 複合的な課題を持つ世帯へ多機関が連携して
支援するための地域ネットワーク強化

2-1 多様性を理解・尊重し、交流する機会の創出

2-2 身近な地域で取り組む健康づくり活動の充実

2-3 多様な地域活動の充実と、時代や環境の
変化に応じた活動の再構築

3-1 地域活動に関する情報の整理と
発信方法の工夫

3-2 地域人材の発掘と育成

3-3 地域活動の充実に向けた支援

26 ページ

31 ページ

34 ページ

第3章

区全体計画では、第5期計画の3つの目標の実現に向けた取組の柱を設け、柱ごとに、区役所、区社協、ケアプラザ等の取組を整理しました。

目標1 安心・笑顔で支え合うまちづくり

【5年後のまちの姿】

住民、支援機関、関係機関・団体による見守りと連携した支援を行うことにより、孤立しがちな人をつなげる・支える活動が広がっています

1-1 地域における見守り・支え合い活動の充実

背景

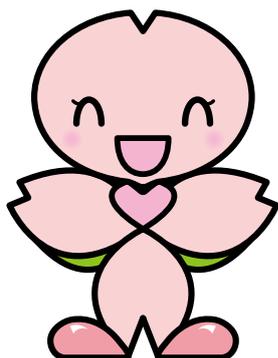
一人暮らしの高齢者等、見守りの必要な対象者が増えているため、地域全体で見守り支え合う自助共助の関係を作っていく必要があります。

○多様な主体による様々な見守り活動が行われています

- 民生委員・児童委員や地域住民、民間事業者等による見守りを推進します。(福祉保健課、高齢・障害支援課、ケアプラザ、区社協)
- 地域住民同士の顔が見える関係づくりを進め、災害時に支援が必要な人を日頃から見守る体制を作ります。(高齢・障害支援課、総務課、ケアプラザ)

○住民同士の支え合い活動が広がっています

- 生活の中のちょっとした困りごとを住民同士で支え合う活動を推進します。(区社協、ケアプラザ)



取組の柱ごとに
「○目指す姿」
それを実現するための「●具体的取組」
「() 実施する機関」
について書いてあるよ！

「移動販売」 ～地域をつなぐ新しいかたち～

様々な事情により店舗へ足を運ぶことが難しい人の近所に、商品を積んだ車がやってくる「移動販売」。南区では、地域の企業や町内会、ケアプラザ、区社協などが連携し、買い物支援にとどまらず、見守りや地域のつながりづくりの場としても生かす取組が進んでいます。

移動販売の場では、商品を選びながら自然と会話が生まれます。顔なじみの販売員やご近所さんとのやりとりが、孤立の防止や安心感につながっています。また、外出のきっかけにもなり、健康づくりや介護予防の効果も期待されています。

「買い物」だけで終わらない、人と人のつながりを育む移動販売。これからも、地域の皆さんとともに育てていく大切な活動です。



みんなが主役の「地域サロン」

町内会館などを会場に、ボランティアが中心となって開いている「地域サロン」は、子どもから高齢者まで、誰でも気軽に参加できる交流の場です。



子育てサロンのびのび

おしゃべりを楽しんだり、体を動かしたり、季節のイベントをしたりと、サロンによって内容はさまざま。一人で参加しても、自然と仲間ができて、近所に顔見知りが増えていきます。「ちょっと出かけてみようかな」と思えるきっかけにもなり、日々の楽しみが広がります。

子どもと親の会、高齢者の集い、多世代交流など、サロンの形もいろいろ。世代を超えてつながることで、地域の絆が深まり、みんなが安心して暮らせるまちづくりにつながっています。

あなたも、ちょっとのぞいてみませんか？



お住まいのサロンは、地区別計画のページをご覧ください。大岡川ふれあいサロン

1-2 困りごとを抱えた人を孤立させないための仕組みづくり

背景

地域とつながりがなく、孤立し、困りごとを抱えている人が、早期に支援につながる仕組みを作っていく必要があります。

○周囲の人の困りごと気づき、相談につなげることでできる人が増えています

- 社会的孤立は、誰にでも起こり得る身近な問題であることへの理解を進めます。
(福祉保健課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課、生活支援課、ケアプラザ、区社協)
- 地域住民等が、困りごとを抱えている人や孤立しがちな人に気づき、身近な相談機関につなぎやすくするための取組を進めます。
(福祉保健課、生活支援課、生活衛生課、ケアプラザ、区社協)
- 児童、高齢者、障害のある人の虐待防止啓発や研修等の実施により、虐待に気づき支援につなぐ人を増やします。(高齢・障害支援課、こども家庭支援課)

○困りごとを抱えた人が相談しやすい環境が整っています

- 身近な場所で相談ができる機会を増やします。
(高齢・障害支援課、こども家庭支援課、生活支援課、区政推進課、ケアプラザ)
- 支援制度や相談先の情報等が必要な人に届きやすい仕組みを作ります。
(区役所各課、ケアプラザ、区社協)

○誰もが自分らしく生活することができるようになっています

- 意思決定に支援が必要な人も、地域の中で自分らしく安心して生活できるための仕組みづくりを進めます。(高齢・障害支援課、ケアプラザ、区社協)
- 生活困窮者自立支援制度により、あらゆる生活課題を抱える人を受け止め支援する仕組みづくりを進めます。(生活支援課)

ひとりじゃない社会へ

社会的孤立は、誰にでも起こりえる身近な問題です。

「社会的孤立」とは、家族や地域コミュニティ、他者と交流する機会がほとんどなく、社会とのつながりやサポートが乏しい状態を指します。

たとえば「8050問題」とは、80代の親と50代の子が同居し、子が長年働かずに家に閉じこもっている状況が続くことで、親の介護や死去をきっかけに孤立が顕在化する問題です。経済的な困難やつながりが感じにくい環境が背景にあり、見過ごせない課題となっています。

南区では、生活困窮者自立支援事業を通じて、困りごとを抱えた人が少しずつ前に進めるよう、さまざまな支援を行っています。相談支援では、専門の支援員が一人ひとりの状況に寄り添いながら、就労支援や家計の見直し、住まいの確保など、



生活の立て直しに向けたサポートをしています。実際に、長く働いていなかった人が支援を受けて自信を取り戻し、社会参加できた事例もあります。

支援につながりにくい人へのアプローチや、地域の人や団体との連携など、孤立を防ぐ仕組みづくりを、区民の皆さんとともに進めていきます。

今書く！すぐ書く！ココで書く！ みんなで書こう 南区版エンディングノート

エンディングノートというと、どんなイメージをお持ちになりますか。

これまでの人生を振り返りながら、思いや希望を整理し、これからの人生が自分らしくより豊かで希望に満ちたものになるように、との願いから、南区では平成 29 年に、南区版エンディングノート「わたしの希望」を作成し、これまでに約 1 万冊を配布しました。(令和 6 年度末時点)

「わたしの希望 南区版エンディングノート」は、薄くて手に取りやすく、初めての方でも書きやすい内容です。区役所や区内の各ケアプラザで無料でお配りしています。

エンディングノートにまとめておくことで、ご自分で振り返ることができるだけでなく、いざというときにはご家族や支援者の助けになります。

自分や家族のために、書いてみませんか？



1-3 複合的な課題を持つ世帯へ多機関が連携して支援するための地域ネットワーク強化

背景

8050 問題やひきこもり、ヤングケアラー等、既存の制度やサービスだけでは解決できず、支援する分野が複数となる世帯が増えています。複数の課題を抱える単身世帯も多く、多機関、多職種によるチーム支援が必要となっています。

○多機関・多職種による連携が進み、切れ目の生じない支援体制が整っています

- 支援機関が相互に相談し合える関係を作り、多機関・多職種によるネットワークを強化します。
(福祉保健課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課、生活支援課、区社協、ケアプラザ)
- 区役所等の窓口で、困りごとを抱えている人に職員が気づき、適切な窓口で相談できるようつなぐ仕組みをつくりまします。(区役所各課)

コラム 12

身近な場所での相談 ～ UR 南永田団地等での取組～

生活支援課では、UR 南永田団地で出張相談会を実施しています。団地には、高齢者や単身者が多く住んでいます。また、最寄り駅から徒歩で 20 分前後かかるなど、区役所までの移動が負担になりやすいことから、困りごとがあっても相談しづらい状況がありました。

そこで、身近な場所で相談できるよう、株式会社 UR コミュニティやケアプラザ（地域包括支援センター）、地域の皆さんと協力し、出張相談会を実施することで、早めに支援につなげる取組を進めています。

相談会では、困りごとをお聞きし、生活保護や生活困窮者自立支援制度などについて説明しています。実際に、制度利用につながった人もおり、こうした活動を通じて、地域や関係機関との連携が深まることで、日常の小さな困りごとでも相談しやすくなっています。

今後も、地域の支援者と力を合わせ、困りごとを抱えた方が一人で悩まないよう、身近な相談の場づくりに取り組んでいきます。

目標 2

様々な人が交流し、 地域活動に参加するまちづくり

【5年後のまちの姿】

年齢や国籍、障害の有無等に関係なく、ともに地域で交流し、福祉保健や趣味等の地域活動に参加する機会が増えています

2-1 多様性を理解・尊重し、交流する機会の創出

背景

南区には外国人や障害のある人等多様な住民がいますが、交流する機会が少ない状況にあります。多様性の理解を進めるためには、同じ地域に住む仲間として交流する機会を増やしていくことが必要です。

○地域住民の多様性を理解・尊重し、ともに交流し活動する機会が増えています

- 障害のある人もない人も、ともに交流する機会を増やし、相互理解を進めます。
(高齢・障害支援課、ケアプラザ、区社協)
- 外国人や外国にルーツを持つ住民と交流する機会を創出します。
(地域振興課、こども家庭支援課)
- 認知症になる前と変わらず地域で交流できるよう、認知症への理解促進等の取組を進めます。(高齢・障害支援課、ケアプラザ)

○様々な住民の居場所や集いの場が充実しています

- 子ども・高齢者・障害のある人等の居場所や集いの場を、地域住民・関係機関・団体等と連携しながら充実させます。
(高齢・障害支援課、こども家庭支援課、ケアプラザ、区社協)
- 地域住民が参加・交流することができる居場所や集いの場について、活動の立ち上げや継続等の運営及び担い手向けの研修等の開催を支援します。
(高齢・障害支援課、こども家庭支援課、ケアプラザ、区社協)

2-2 身近な地域で取り組む健康づくり活動の充実

背景

地域ではすでに様々な健康づくりに向けた取組がありますが、健康に関心がない人や、地域とつながりのない人にも広めていく必要があります。人とのつながりを通じた健康づくりの重要性が認識されてきています。

○健康につながる行動を取ることのできる住民が増えています

- 運動、食事、睡眠等の生活習慣を見直す機会を作ります。(福祉保健課、ケアプラザ)
- 健康をテーマとした普及啓発を行います。(福祉保健課、ケアプラザ)
- 健康をテーマとしていなくても、参加することで自然と健康になれる取組を実施します。(福祉保健課、ケアプラザ)

○身近な場所や地域で健康づくり・介護予防に関する活動の機会が増えています

- 元気づくりステーション、ウォーキング等、介護予防・健康づくりの場を提供します。(福祉保健課、高齢・障害支援課、ケアプラザ)
- 保健活動推進員、ヘルスマイト、かいご予防サポーター等の住民の活動者を支援することにより健康づくりの活動を進めます。(福祉保健課、高齢・障害支援課、ケアプラザ)

コラム 13

保健活動推進員ってどんな人？

保健活動推進員は、自治会町内会の推薦により、横浜市長からの委嘱を受け、地域の皆さんが健康に過ごせるよう、さまざまな健康づくりの活動を行っています。

気軽に集まって楽しく運動したり、健康について話し合ったりするきっかけとして、地域のお祭りやサロンで血管年齢や握力などの測定を行う「健康測定会」、みんなで楽しく歩く「健康ウォーキング」など、それぞれの地域で特色ある取組が行われています。

住民同士のつながりを深めながら、健康づくり活動を進める、身近で頼れる存在です。



背景

地域住民同士が顔見知りになり、親しくするには、多くの人に参加したいと思うような地域活動が存在し、気軽に参加できることが必要です。ライフスタイルの変化にともない、誰でも活動できるように活動を変化させることが重要です。

○多くの住民が地域に関心を持ち、地域活動に参加しています

- 多世代が関心のあるテーマや趣味等のイベント・講座等を開催します。
(地域振興課、こども家庭支援課、ケアプラザ)
- 地域とつながりの少ない人を含め、誰もが参加しやすい活動の実施に向けて、地域活動団体等を支援します。(地域振興課、ケアプラザ、区社協)

○地域を取り巻く状況に合わせ、地域活動のあり方が工夫されています

- 持続可能な活動方法について団体とともに考え、ニーズに合わせた支援を行います。
(地域振興課、ケアプラザ、区社協)

コラム
14

地域の絆を深める“音楽×健康”の取組

音楽を通じて、笑顔と健康、そして地域の絆が広がっていく——南区の市民活動団体「桜の町で♪実行委員会」は、そんな地域の未来を描き、活動しています。

✿活動内容

南区制80周年を機に誕生した曲『桜の町で♪』。「みんな大好き みなっち♪」のメロディに合わせて体操や椅子ヨガ、盆踊りなどを取り入れ、楽しみながら健康づくりができる場を提供しています。

✿活動の特徴と工夫

- 簡単な振り付けで、年齢や体力に関係なく誰もが気軽に参加できます。
- 体操の合間に自然と会話が生まれ、交流と地域の絆も深まります。
- メンバーは「自分たちが楽しむことが、参加者の笑顔につながる」をモットーに、活動に誇りと喜びを持って続けています。

〈参加者の声〉

毎週の体操で「身体が軽くなった」と実感する声が上がっています。また「孫と一緒に楽しめるのがうれしい」といった声も寄せられており、世代を超えた交流が生まれています。



目標 3

地域活動を支える基盤づくり

【5年後のまちの姿】

地域活動に関する情報を知りたい・活動したいと思った時に、取り組みやすい環境が整えられています

3-1 地域活動に関する情報の整理と発信方法の工夫

背景

様々な情報から自分に適している地域活動を選びやすくなれば、活動を始めやすくなります。受け手の特性に合わせた情報発信方法を工夫する必要があります。

○対象者に合わせた受け取りやすい方法で地域活動に関する情報が発信されています

- 紙媒体やホームページ・SNS等の電子媒体情報等、多様な方法を用いて、より多くの住民に地域活動に関する情報を届けます。(区役所各課、ケアプラザ、区社協)
- 情報を受け取ることが難しい人や地域との接点が少ない人にも地域活動に関する情報が届くよう、様々な伝達方法を検討し実施します。(区役所各課、ケアプラザ、区社協)
- 地域活動に関する情報を整理・集約し、住民が入手しやすくなる方法を検討し実施します。(区役所各課、ケアプラザ、区社協)

コラム 15

SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) とは

ウェブ上で人々が交流し、つながりを築くためのサービスです。種類ごとに特徴があり、情報発信や交流の目的によって使い分けられています。主なものを紹介します。

SNS のタイプ	サービス名	どんなもの？
流れる情報型	X (旧 Twitter)	一言コメントのような短い文章を投稿する。今起きていることをすぐに発信できて、たくさんの人に広まりやすい。
メッセージ型	LINE	家族や友達等とメッセージを送り合うことができる。区役所やケアプラザが登録者に向けて、お知らせを発信することができる。
写真・動画型	Instagram	写真や短い動画を気軽に投稿できるサービス。見た目でも伝えたいことがあるときにぴったり。「#(ハッシュタグ)」で同じ話題を探せる。
	YouTube	動画を投稿したり、視聴したりできる。映像での説明や紹介に向いている。
動画型	TikTok	短い動画を投稿したり、視聴したりできる。
つながり型	Facebook	本名で登録する。知っている人とつながって、日記のように情報を発信できる。団体や企業などでページを開設し、ホームページのように使うこともできる。

3-2 地域人材の発掘と育成

背景

地域活動団体の多くで、高齢化等による担い手不足が課題となっています。地域活動に取り組みたい潜在的な人材を活動につなぐためには、地域のコーディネート機能が重要です。すでに活動している人がやりがいを持ち、楽しく続けるための工夫も必要です。

○新しい地域人材の発掘と、活動しやすい環境づくりが進んでいます

- かいご予防サポーター、認知症キャラバンメイト等の地域人材を育成し、活動を支援します。(福祉保健課、高齢・障害支援課、ケアプラザ)
- 新たに地域活動に取り組みたい人材を発掘育成し、活動とつなぎます。(地域振興課、ケアプラザ、区社協)

○地域活動を継続させるための支援が進んでいます

- 地域活動者同士の交流会や、スキルアップできる研修会等を開催します。(福祉保健課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課、ケアプラザ、区社協)

コラム 16

自治会町内会～地域でつながるいい関係～

最近では、隣に誰が住んでいるのか知らない…ということも珍しくなくなってきました。でも、災害が起きたときや子育てで困ったときなど、頼りになるのはやっぱり「ご近所さん」という場合も多いと思います。そんな地域のつながりを支えているのが「自治会町内会」です。

◆自治会町内会とは…

自治会町内会は、一定の地域において、住民相互の親睦を図り、そこで起こる様々な課題を解決することを目的に自主的に組織された住民団体です。横浜市内には、令和6年4月1日現在で2,827団体の自治会町内会が組織され、約121万世帯の市民が加入しています。(※南区内自治会町内会加入数：203団体、約7万世帯)

◆具体的にはこんな活動をしています！

- 防災訓練の実施や備蓄品の整備など防災対策
- 子育て支援や単身高齢者の見守り活動
- 公園などのまちの清掃・美化
- お祭りやスポーツ大会などのイベントを通じた地域交流づくり
- 防犯パトロールや子どもたちの登下校の見守り活動などの安全安心活動

HPでも自治会町内会の検索や加入相談できます！



自治会町内会への加入のご相談はこちら 

[南区連合町内会](#) [検索](#)

南区連合町内会長連絡協議会事務局 (南区地域振興課地域活動係)

TEL:341-1235

メール：mn-chishin@city.yokohama.lg.jp

南区区連会 HP▶



あなたの元気が、みんなの元気に！ ～「かいご予防サポーター」の活動をご紹介～

南区では、区独自の介護予防ボランティア「かいご予防サポーター」が活躍しています。令和7年には活動開始から20周年を迎え、約160人(令和7年8月時点)のサポーターが地域の健康づくりに活躍しています。

■ かいご予防サポーターになるには？

介護予防の知識・実践を内容とした、全5回の養成講座を受講し修了することで、かいご予防サポーターとなることができます。

■ 活動内容は？

「みなみフレイル予防健診（介護予防健診）」の運営をはじめ、地域の身近な場所で「脳トレウォーキング教室」や「フレイル予防出前講座」を通じて、介護予防の大切さを地域の皆さんに伝える活動を行っています。

■ 無理なく、楽しく、地域に貢献！

活動は自分のペースで無理なく、「自分も健康になれて、人の役にも立てる」ことが魅力です。介護予防の活動を通じて、地域とのつながりも深まります。



南区食生活等改善推進員会(愛称：ヘルスマイト)を知っていますか？

南区食生活等改善推進員会（愛称：ヘルスマイト）は、“私たちの健康は私たちの手で”を合言葉に、地域で食育の普及活動をしているボランティアです。

「食生活」と「運動」などを通じた“健康づくり”について学び、自ら実践しながら、地域へ広める活動を行っています。全国的に組織化された団体で、令和7年4月に結成68年目を迎えた南区では、現在73名の会員が4地区に分かれて楽しく活動しています。



■ ヘルスマイトになるには？

毎年南区福祉保健センターで開催される養成講座を修了する必要があります。

■ 活動内容は？

「健康横浜 21」の推進を目指し、朝食や野菜の摂取、減塩、ウォーキングなど、生活習慣の改善を進める活動をしています。

3-3 地域活動の充実に向けた支援

背景

地域活動を安定して運営するためには、活動場所や資金等が必要です。区役所や関係機関が地域の活動団体を支えることで活動しやすくなります。

住民だけでなく、地域の民間企業や商店街等が地域活動に関わることで、地域を活性化できる可能性があります。

○地域における各種団体が活動を展開しやすい環境が整っています

- 自治会町内会、地区社協、各種団体等に対して、補助金の交付・活動場所の提供・専門知識に関する相談等の支援を行います。
(地域振興課、生活衛生課、ケアプラザ、区社協)
- 地域支援チームにて各分野の課題と対応を共有し、地域活動等への支援に生かします。
(福祉保健課、地域振興課)

○民間企業、商店街等との連携により、地域がつながり、活性化しています

- 民間企業、商店街、社会福祉施設等と連携した取組を進めます。
(福祉保健課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課、生活支援課、地域振興課、区政推進課、ケアプラザ、区社協)

ケアプラザや区のイベントが
地域活動団体の発表や
活躍の場になっているね



南区文化祭



清水ヶ丘地域ケアプラザ
ヒルトップフェスタ



いきいきふれあい南なんデー

いつまでも健康で ～働き盛り・子育て中からの健康づくりが大切～

健康寿命^{*}をのばすためには、「がん」「心臓病」「脳卒中」などの病気を予防することがとても大切です。これらは、毎日の生活習慣と深く関係しています。

食事のバランス、歯やお口のケア、たばこやお酒との付き合い方、運動、休養とこころの健康。どれも、ちょっとした意識で変えることができるものです。また、自分の健康状態を確認し、病気を早期発見するためには、定期的ながん検診や特定健診を受けることも大切です。

働き盛りの人や子育て中の人は、つい自分の健康のことは後回しにしがちです。今のうちから健康を意識することが、未来の自分につながります。

南区では、SNS での情報発信や、商業施設など気軽に立ち寄れる場所での健康測定・啓発を行っています。ぜひご利用いただき、健康づくりのきっかけにしてみてください。

※健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間



地域と育む、子どもたちの笑顔と未来

区内3つの市立保育所では、地域の皆さんとの温かな交流が日々行われています。

年長児たちは近隣の公園で花植えや清掃活動を行い、公園愛護会の方々と協力しながら自然とふれあう体験を重ねています。園芸が好きな地域の方が園の花の手入れをしてくださることもあり、園内がより美しく保たれています。さらに、月に一度の「お話し会」では、ボランティアの方々が絵本の読み聞かせや手遊び歌を通じて、子どもたちに楽しい時間を届けてくださいます。お正月には地域の方々を園に招いて昔ながらの遊びを楽しみ、世代を超えたふれあいが生まれました。

こうした交流は、防犯や見守りの面でも効果が期待でき、地域全体で子どもたちを育てる環境づくりにつながっています。今後は、保護者への情報発信を強化し、日常的な交流の機会をさらに広げていきます。



ご存じですか？ 地域の身近な相談相手 民生委員・児童委員、主任児童委員

民生委員は、地域福祉の増進を担うボランティアで、地域の人々の困りごとや心配ごとの相談に乗り、適切な支援が受けられるように専門機関につなぐ「つなぎ役」です。

主に地域活動の経験がある人が、自治会町内会等の地域の推薦を受けて、厚生労働大臣から委嘱される、無報酬の非常勤特別職の地方公務員で、任期は3年です。



横浜市版
民生委員・児童委員キャラクター
よこはまミンジー

民生委員は、児童委員も兼ねているんだ。子育て中の人、高齢者、障害のある人などの困りごとの相談に乗り、区役所や地域包括支援センター（ケアプラザ）などの関係する機関や団体におつなぎするよ。
主任児童委員は、子どもや子育てに関する支援を専門に担当する民生委員なんだ。

【主な活動内容】

- ひとり暮らし高齢者などの相談・支援など
- 高齢者サロン（高齢者が気軽に参加できる交流の場・仲間づくりの場）、食事会など
- 子育てサロン（親子遊びや育児アドバイス、保護者同士の情報交換、友達づくりの場）、子ども食堂、小中学校との連携や通学見守りなど

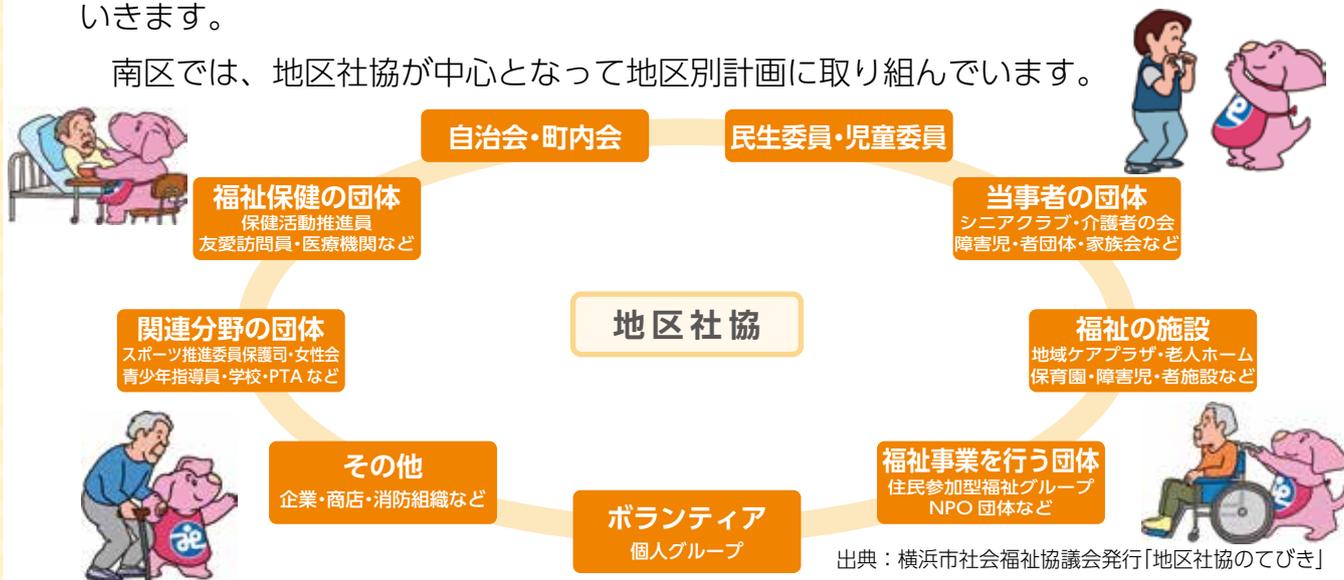
※民生委員・児童委員、主任児童委員には守秘義務があり相談した人の秘密は守られます。

地区社会福祉協議会とは

地区社会福祉協議会（地区社協）は、自治会・町内会、民生委員・児童委員などの地域活動団体やボランティア、障がい団体などの当事者組織や地元の施設といった、地域に根付いた活動を行っている様々な団体で構成されるネットワーク組織です。

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作り出す」ことを目指し、各団体と協力しながら、「一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり」を進めていきます。

南区では、地区社協が中心となって地区別計画に取り組んでいます。



出典：横浜市社会福祉協議会発行「地区社協のてびき」

第4章 地区別計画

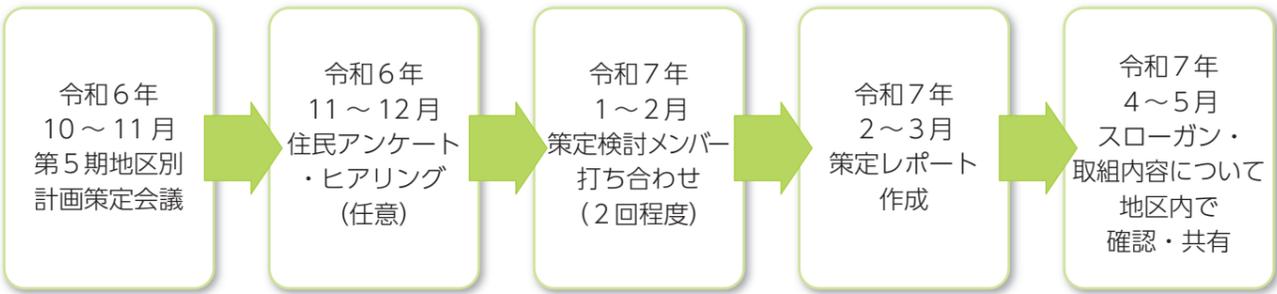
地区別計画は、区計画と「基本理念と目標」を共有するとともに、区内 16 地区ごとの状況や課題に合わせた目標を設定し、地区特性や資源を活かしながら課題を解決する取組についてまとめています。

1 地区別計画のエリアとスローガン

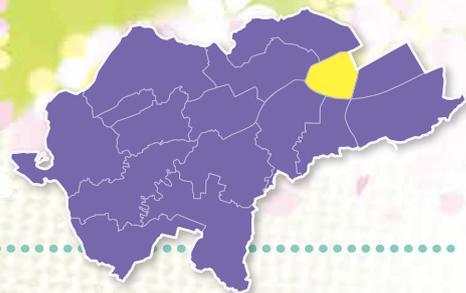


2 地区別計画策定までの流れ

区内 16 の地区社協が中心となり「目指すまちの姿」に向かって、スローガンや取組目標などを検討しました。



お三の宮地区



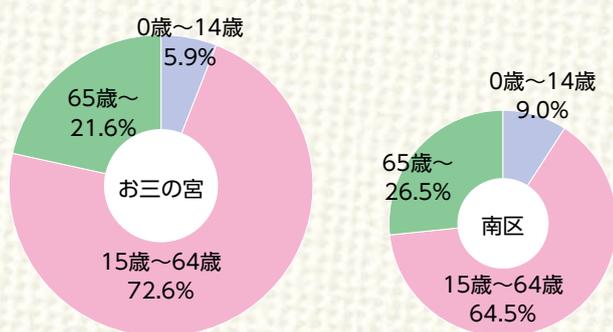
日枝町 ● 南吉田町 ● 山王町 ● 新川町 ● 二葉町 ● 高砂町 ● 吉野町

地区別計画スローガン

「支え合い・つながり」 あふれるまちづくり

データで見るお三の宮地区

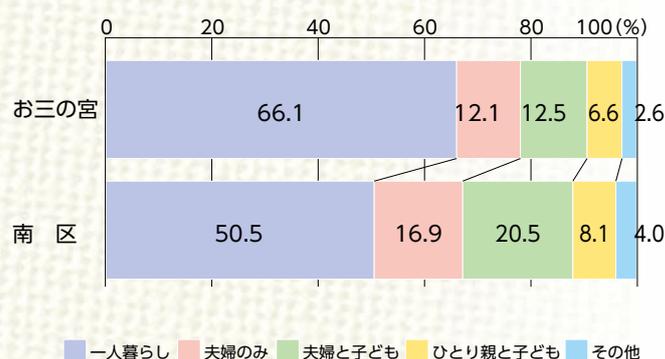
年齢3区分別人口割合



お三の宮地区総人口：13,635人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1 住民同士の交流から、助け合いが生まれるまちをつくろう

サロンやイベント、異世代交流事業などの住民とのつながりづくりの場を継続し、さらに地域住民の特技や趣味を活かして住民同士の交流や顔の見える関わりが出来るような企画・取組を進めます。



ふれあいスポーツ大会

ふれあいオセロ大会



2 各世代が健康でいきいきと暮らせるまちをつくろう

健康体操会、ウォーキング、健康測定会、グランドゴルフ大会等を通じて地域住民が健康につながる活動を継続していきます。



グランドゴルフ大会



健康体操教室

3 地域の情報や活動が伝わるまちをつくろう

地域活動への参加を促進するため、地区だよりの発行、掲示板による周知、ホームページを活用して情報発信を継続し、さらに幅広く情報を届ける仕組みづくりを検討していきます。



広報紙



ホームページ



4 誰もが住んでよかったと思えるまちをつくろう

各サロンやイベントの開催、地域防災拠点訓練、防犯パトロール、認知症サポーター養成協力者を通じて、安心して楽しく住み続ける地域を目指していきます。



高齢者サロン ひだまり



子育てサロン ほっとmom

太田地区



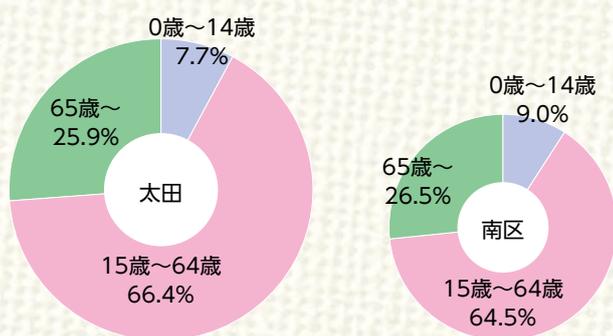
南太田 ● 清水ヶ丘(一部)

地区別計画スローガン

幸福！満腹！声かけ！ 太田地区！

データで見る太田地区

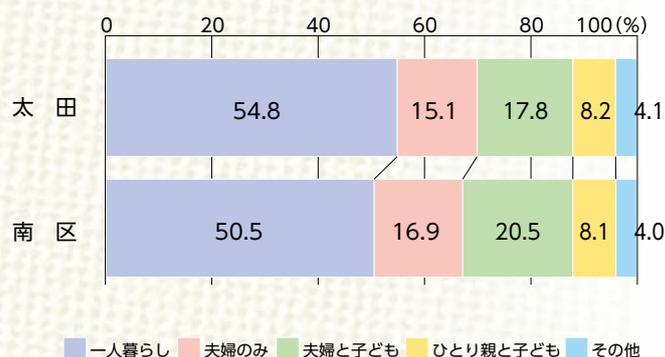
年齢3区分別人口割合



太田地区総人口：9,709人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1 いつでもお互いに声をかけあえる 優しいまち

日頃からご近所同士で気軽に声をかけあい、挨拶などを通じて「たとえ一人でも、独りではない」お互いの顔が見え、安否確認を兼ねた関係づくりを進めていきます。



高齢者食事会 ちとせ会



ハッピーストレッチ

2 誰もが気軽に交流できるまち

高齢者サロンや子育てサロンなど対象者を募った居場所づくりや、誰もが参加できるハロウィンウォーキングなどの健康づくり活動を通じて、少人数でも大勢でも気軽に交流できる取り組みを行います。また、参加者だけでなく担い手も大いに楽しめる活動ができる企画運営を行います。



太田地区連合祭り 集合写真

3 日頃からみんなにわかりやすい情報が届く、安心・安全なまち

地区の活動や災害時等の最新情報が、多くの世代に届けられるよう、HPや広報紙（あったか通信）等を活用し情報を発信していきます。また、災害時や緊急時における情報伝達のしくみを、各町内会・連合とも連携して考えていきます。



HPはコチラから



広報紙（あったか通信）

太田東部地区



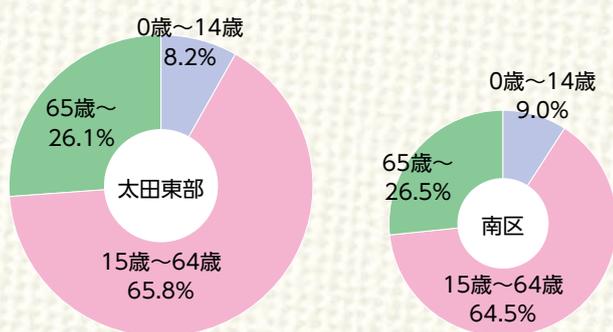
白金町 ● 西中町 ● 三春台 ● 清水ヶ丘(一部) ● 前里町 ● 庚台 ● 伏見町

地区別計画スローガン

太田東部 笑顔あふれる 大きな輪

データで見る太田東部地区

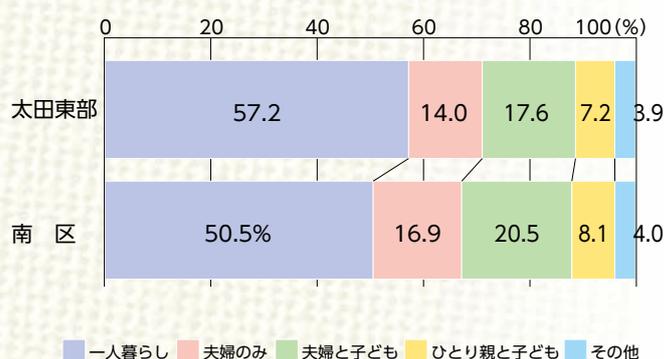
年齢3区分別人口割合



太田東部地区総人口：11,254人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

安心・安全で思いやりのあるまち

子どもから大人まで様々な世代が地域でつながり、顔が見える関係づくりを進めていきます。



防災施設見学の様子



防災訓練の様子

2

みんなで参加し、楽しく交流できるまち

地域の身近な居場所づくりを進めることで、サロンなどを通じた健康づくりを進めていきます。



まちテクラリー



子育てサロンぱんだ

3

楽しく健やかで元気なまち

誰もが楽しく参加できる交流の場づくりを行います。

また、様々な人に情報伝達ができる仕組みを検討していきます。



健民祭



地区社協主催ボッチャ大会

寿東部地区



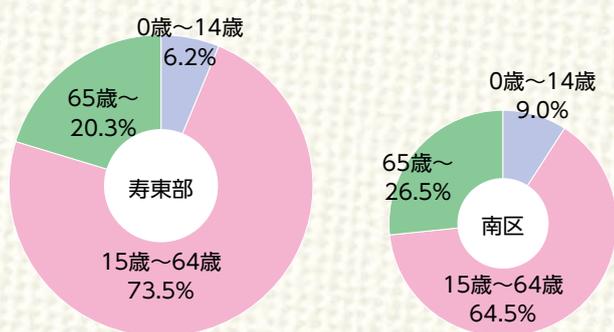
浦舟町 ● 白妙町 ● 高根町 ● 永楽町 ● 真金町 ● 万世町

地区別計画スローガン

ひとの輪(和)を 深めるまちづくり

データで見る寿東部地区

年齢3区分別人口割合



寿東部地区総人口：16,350人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1 だれもが安心して健康でいきいきと暮らせるまちをつくろう

だれもが参加できるイベント・サロンの実施を通じて、気軽にあいさつができるまちづくりを進めます。



お達者塾



健康体操

2 困った時に支え合えるまちをつくろう

寿東部地区では、ワンルームマンションが増え、ご近所付き合いが減っています。そのため、顔の見える関係づくりを進め、困った時の相談や、災害時に支え合えるための居場所をつくり孤立化を防ぎます。



子育てサロン サンサンデイ

3 まちの情報を共有し、寿東部の魅力を伝えていこう

広報誌「えん」の作成、掲示板による周知に加え、若い世代への発信も検討し、一体感を感じられる寿東部を目指します。



広報紙「えん」



寿東部連合町内会
寿東部地区社会福祉協議会

横浜市内にある、「各町内会（町内会）連合会」のホームページです。ここでは、連合町内会からの情報や、各町内会・各団体のイベントなどを発信しています。

寿東部地区ホームページ



4 互いの文化的違いを認め合い よりよいまちをつくろう

外国籍の人とも一緒に活動する場を増やし、互いに理解しあえる関係を深めます。

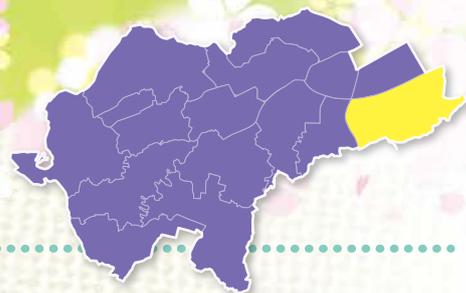


つながり清掃ウォーク



多国籍の方も楽しく参加!!

中村地区



中村町 ● 唐沢 ● 山谷 ● 平楽 ● 八幡町

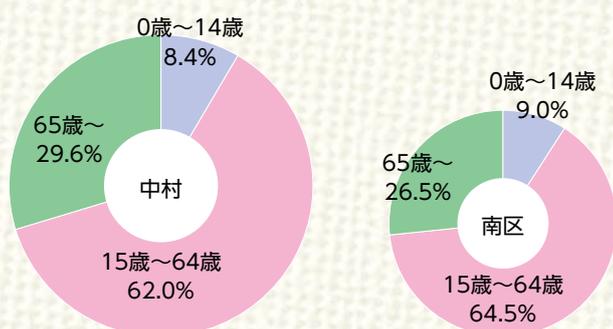
地区別計画スローガン

小さな輪を大きな輪へ

～なかまづくりで育む (HUG 組む) ちから～

データで見る中村地区

年齢3区分別人口割合



中村地区総人口：14,900人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

孤立しがちな人をお互いさまのまなざしで見守り、支え合えるまち

身近な地域で気軽にあいさつ・声かけ合い、小さな単位でのサロンやイベント等を通じて、お互いの顔の見える関係づくりを進めます。



いきいき中村地区の集い



なかむらアカデミア

2

様々な個性や世代の住民が参加・活躍できるまち

伝統・文化(したまち・にんじょう)を大切に、障害や国籍などの垣根なく、世代間交流や隣近所の交流、町内会や施設などの枠も超えて、誰もが参加・活躍できる取組を進めていきます。



クリスマスフェスタ



七夕フェスタ

3

地域活動の情報が届くまち

まちの魅力を知ると共に、地域活動への参加のきっかけになるように、広報紙等を活用して情報を発信していきます。



連合まつり



中村地区大運動会

蒔田地区



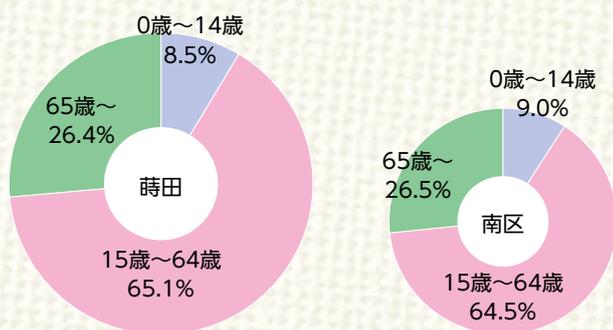
大岡 1 丁目(一部) ● 蒔田町(一部) ● 東蒔田町 ● 榎町 ● 共進町
宿町 ● 花之木町 ● 宮元町

地区別計画スローガン

ぱわ～あっぷまいた！ 『継続と充実』

データで見る蒔田地区

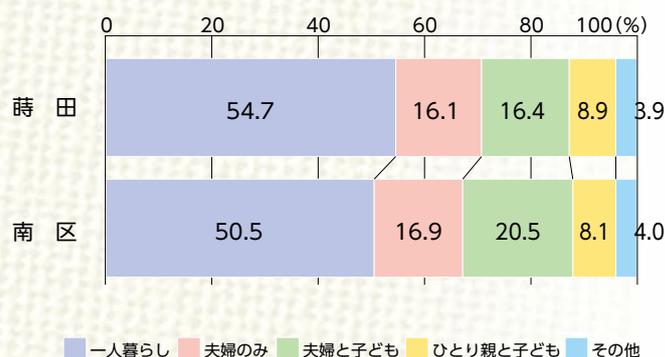
年齢 3 区分別人口割合



蒔田地区総人口：14,433人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。



広報紙「ばわ〜あっぱまいた」

1 地域活動や福祉保健の情報を 住民同士で共有するために

- ホームページにて地区社協・連合町内会の活動や行事計画等の情報発信
- 広報紙「ばわ〜あっぱまいた」の発行
- 広報委員会にて地区内の情報交換・情報共有や紙面作りの検討

2 子どもから高齢者まで 交流できる場を作るために

- 小学生を対象に「蒔田理科クラブ」「木工教室」等物づくり教室の開催
- 小学生を対象に「お菓子作り」「長〜い太巻き作り」等の開催
- 中学生と地域住民との交流の場を設け、顔の見える関係作りを推進



蒔田理科クラブ



長〜い太巻き作り

3 高齢者の孤立や 引きこもりの予防のために

- 高齢者サロン「ふれあいサロン」の開催
- 「一人暮らし高齢者食事会」の開催
- 「健康マージャン大会」の開催



ふれあいサロン

4 子育て家庭を見守るために

- 親子ふれあいの場「あかいくつ」の開催
- 子ども食堂「ありがとう食堂」の開催



子育てサロンあかいくつ

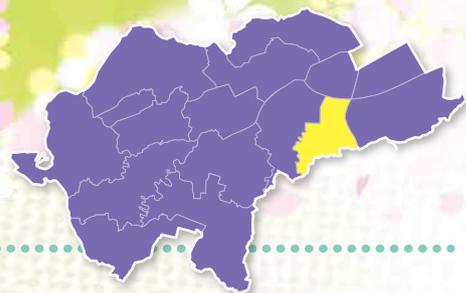
5 障がい児・者が安心して暮らせるために

- 「障がい理解講座」の開催
- 障がい児・者の各種サロンへの担い手としての参加と住民との交流



障がい理解講座

堀ノ内睦町地区



堀ノ内町 ● 睦町 ● 蒔田町(一部)

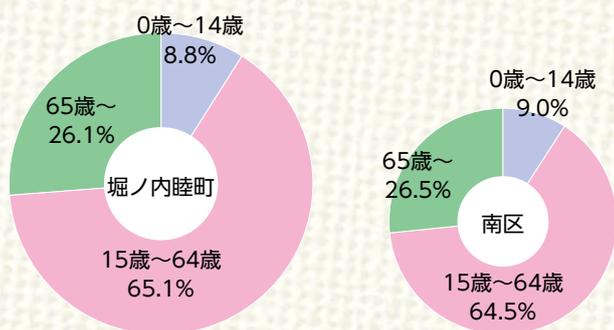
地区別計画スローガン

暮らし広がれ！堀睦

～つながる・みまもる・みんなのまち～

データで見る堀ノ内睦町地区

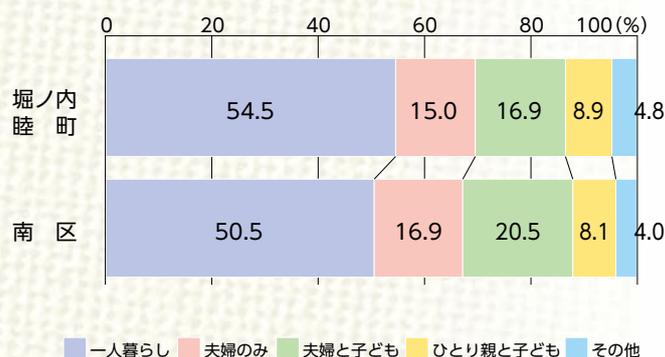
年齢3区分別人口割合



堀ノ内睦町地区総人口：6,323人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

声をかけあうお互いさまのまちに

サロンやイベント等を通じて、顔見知りが増え、日頃のあいさつをしあえる関係づくりのきっかけとなるような取組を充実させていきます。



いきいき堀睦会



子育てサロンのびのび



防災フェア



睦町公園映画会

2

みんながつながる笑顔あふれるまちに

近隣の社会福祉施設などと連携し、日頃の地域活動や災害時に協力しあえる関係を築きます。世代や国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もがお互いを理解し、つながりあえる取組を考えていきます。



みんなでチャレンジ



趣味の作品展



広報紙ほがらか

井土ヶ谷地区



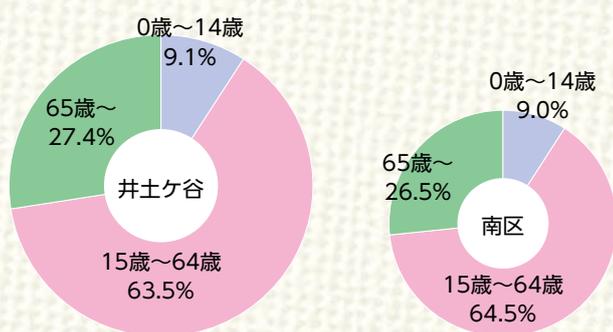
井土ヶ谷上町 ● 井土ヶ谷中町 ● 井土ヶ谷下町

地区別計画スローガン

あいさつとふれあいの町 井土ヶ谷

データで見る井土ヶ谷地区

年齢3区分別人口割合



井土ヶ谷地区総人口：12,023人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

「おはよう」からはじまる思いやりとご近助づきあい

- ご近所でのあいさつをきっかけに互いに気にかけてあえるあたたかい町
- 知り合いがたくさん増える、友達がたくさんできる町



高齢者食事会～カトリア会～



子育てサロン～豆の木～

2

誰もが地域に関心を持ち安心して暮らせる町

- 幅広い世代が活発に活動している町
- 必要な情報が行き届く安心できる町



オール井土ヶ谷ふれあいクリーン&ウォーク



3

みんながいきいき「ほっ」とできる町

- いつまでも健康で笑顔で過ごせる町
- 心配事をいつでも相談できる町

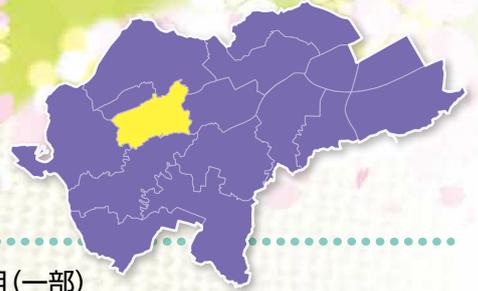


元気!! いどがや!!



ボッチャ交流

南永田山王台地区



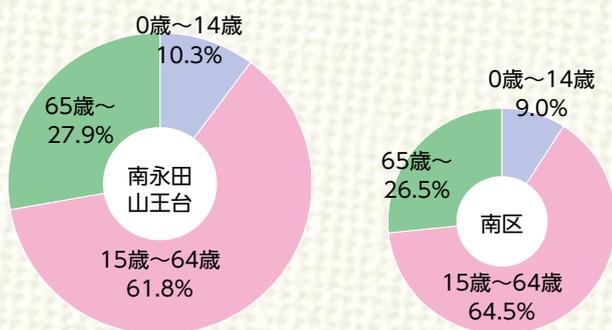
永田山王台(一部を除く) ● 永田南1丁目(一部)・2丁目(一部) ● 永田東1丁目(一部)

地区別計画スローガン

明るい未来へ 誰もが安心・安全に 暮らせる温かい街

データで見る南永田山王台地区

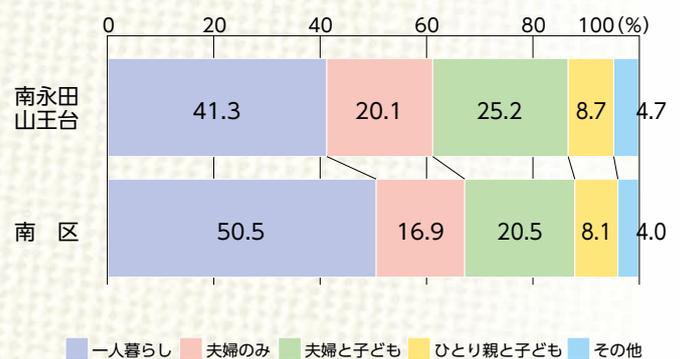
年齢3区分別人口割合



南永田山王台地区総人口：8,335人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

ご近所で《おせっかい♡》をし合えるまち

隣近所で話をし合える地域を目指し、挨拶、助け合い、交流をすることで、つながりを持ち続けられるように実践していきます。



子育てサロンつくしんぼ



高齢者食事サービス『すみれ会』

2

生きがいを持って健康で暮らせるまち

地域住民の生きがいとなるよう、スポーツ、趣味、サークル活動など健康につながる活動を継続して行います。



グラウンドゴルフ大会



保健活動推進員健康体操

3

一人一人ができることを地域で生かせるまち

地域住民それぞれの特技を活かして、住民同士幅広い世代の交流ができるような行事や取組を行います。

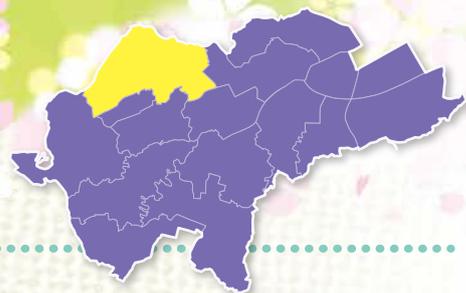


ふれあいフェスティバル



防災訓練

北永田地区



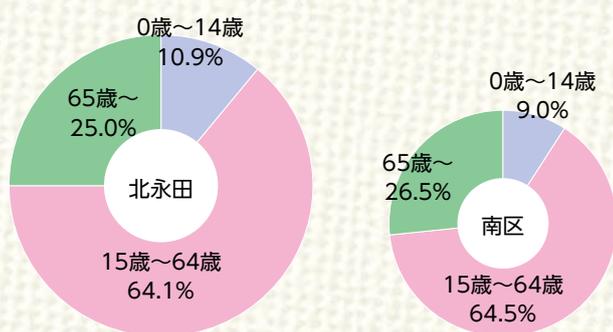
永田東1丁目(一部)・2・3丁目 ● 永田南2丁目(一部) ● 永田北 ● 永田台

地区別計画スローガン

支え合い 助けあう明るいまち 北永田

データで見る北永田地区

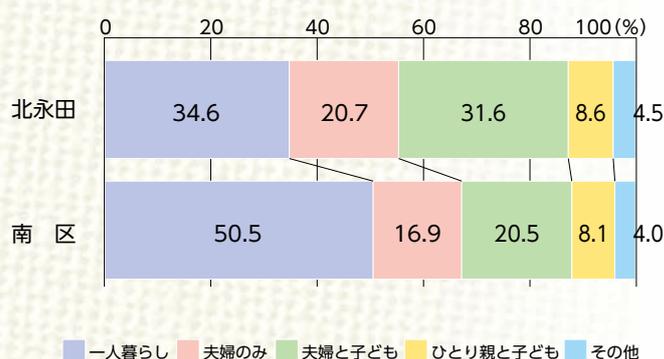
年齢3区分別人口割合



北永田地区総人口：17,823人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

情報が行き届き 地域に関心が持てるまち

多くの方が地域へ関心を持てるように
回覧板・掲示板・SNSなどで情報発信を行い、
地域・サロンの情報が
受け取れるようにします。



広報紙「ふれあいながた通信」



2

お互いに支え合い 安心して暮らせるまち

災害時の備えや周囲との孤立を防ぐために、
お祭りや地域サロンなど住民同士の交流や
ふれあう機会を積極的に作り、
世代をこえた
顔の見える関係づくりを
進めていきます。



ふれあい昼食会（音楽会）



子育てサロンぽてと

3

みんなが気軽に 活動に参加し交流できるまち

幅広い世代の方が特技を活かして、
地域と関わりの持てる場づくりを
進めていきます。

また、ボランティアグループや
地域内関連施設などが互いに連携し
社会参加の機会や健康づくりに
つながるように取り組みます。



北永田サロン



永田げんき広場

永田みなみ台地区



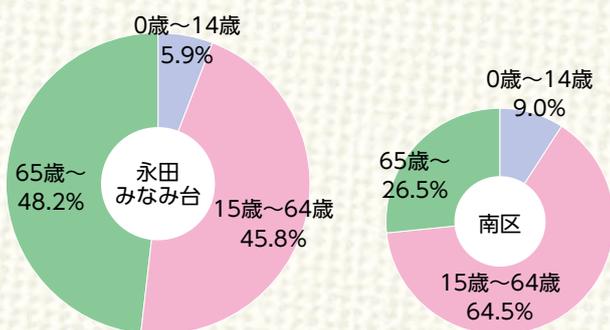
永田みなみ台

地区別計画スローガン

誰もが笑顔でつながる 街づくり

データで見る永田みなみ台地区

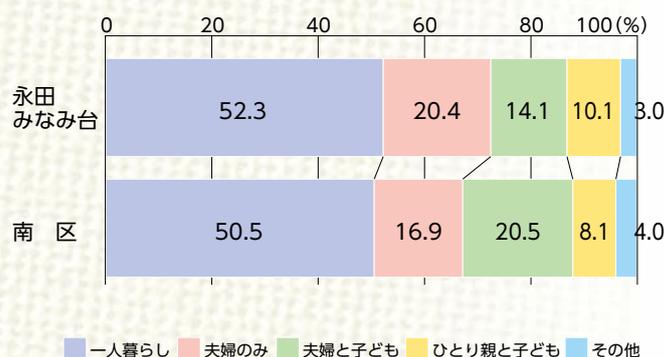
年齢3区分別人口割合



永田みなみ台地区総人口：3,994人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

誰もが気軽に声をかけあい、見守り合えるまち

日常的に住民同士で声かけやあいさつ、見守り活動など、幅広い世代が「このまちに住んでよかった！これからも住み続けたい！」と思える活動を広く発信し、地域で連携して取組んでいきます。



つながり祭



見守り隊

2

誰もが出会いを大切にし、交流できるまち

地域の魅力でもある豊富な自然や公園、遊歩道などの既存の場所での出会いや、サロン・イベントなどの交流活動を通じて、住民同士が知り合うきっかけを作り、“つながり”を増やしていきます。



おしゃべり会



子育てサロンまんま



3

誰もが地域のさまざまな場面に参加できるまち

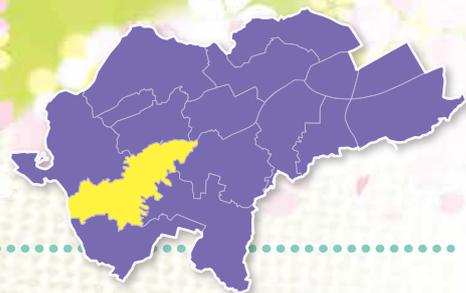
周辺の小学校やキッズクラブ、学童クラブ、中学校の部活動と連携し、子どもや学生、その保護者や経験豊富な高齢者の皆さんが地域に関わることをきっかけに、“誰もが主役の地域づくり”の取組を進めていきます。



子どもの居場所 SUN SUN



六ツ川地区



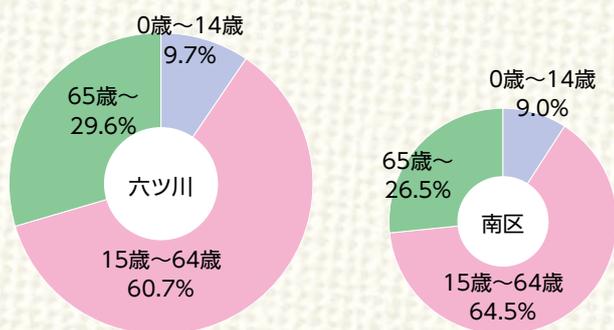
六ツ川1丁目(一部)・2丁目(一部) ● 中里3丁目(一部)・4丁目(一部)
 永田山王台(一部) ● 別所中里台(一部) ● 別所6丁目・7丁目(一部) ● 永田南1丁目(一部)

地区別計画スローガン

笑顔でつながる 六ツ川

データで見る六ツ川地区

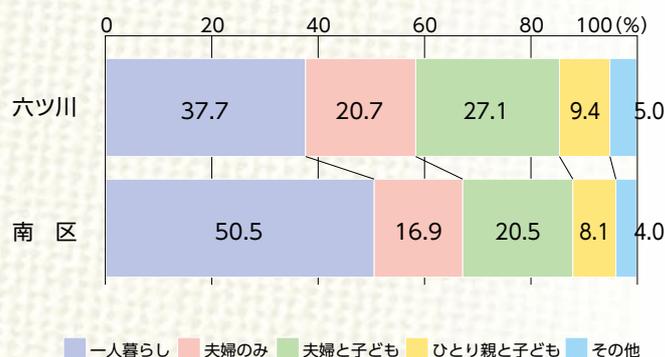
年齢3区分別人口割合



六ツ川地区総人口：11,572人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

地域を超えて誰もが声をかけあい 安心して暮らせるまち

祭りなど地域行事への
多くの人の参加や
みまもり活動を通じて
顔の見える関係づくりを行い、
住民同士が思いあえる
地域を目指します。



六ツ川みまもりたい



保健体操会



高齢者の交流「おしゃべり会」



防災訓練

2

世代・立場を超えて 地域活性化・交流できるまち

地区社協や連合が連携し、
子供から高齢者まで参加できる
取組を実施します。
また、様々な世代に情報が届くように
SNSなどを活用した
情報発信を行います。



三世代交流サロン「カーネーション」



六ツ川ふれあい演芸大会



ふれあいまつり



ボッチャ体験会

六ツ川大池地区



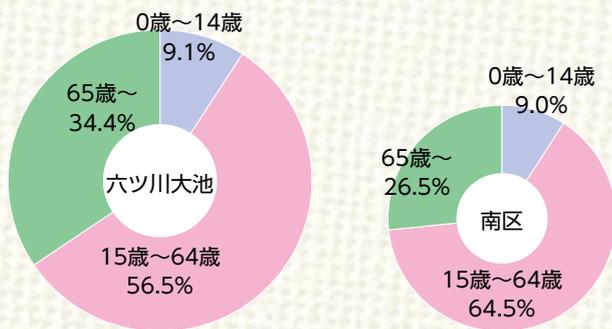
六ツ川1丁目(一部)・2丁目(一部)・3・4丁目

地区別計画スローガン

つなげようひろげよう 誰もが互いに支え合う まちづくり

データで見る六ツ川大池地区

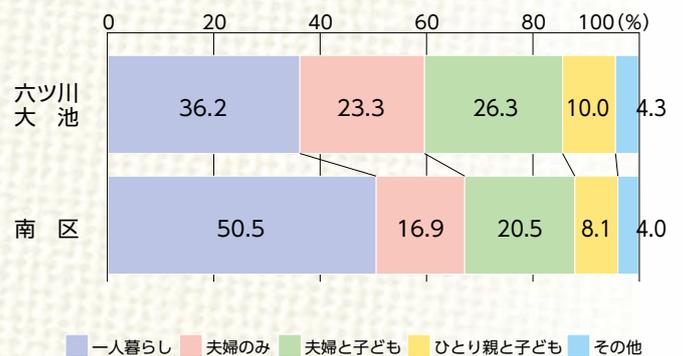
年齢3区分別人口割合



六ツ川大池地区総人口：14,120人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

「お互いさま」でささえる安心なまち

日々のあいさつや見守りから顔見知りになり、
ご近所でお互いに支え合えるように考えていきます。



支えあいグループすみれ

2

地域の交流を通じた交流ができるまち

サロン活動や地域のイベントを通じて、
誰もが参加しやすい活動の場づくりを行います。



サロン「すくすくひよっこ」



サロン健康麻雀

3

地域の活動を通して情報を 伝えあえるまち

口コミによる伝達、広報紙、SNS などを活用し
六ツ川大池の関心が広がる
情報を発信していきます。

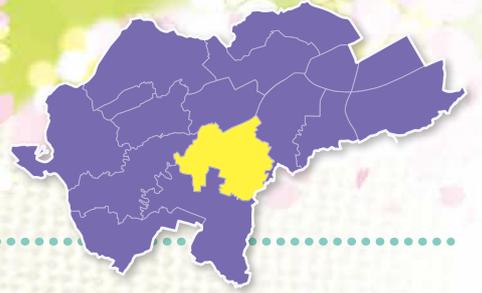


広報委員会



社協だより

本大岡地区



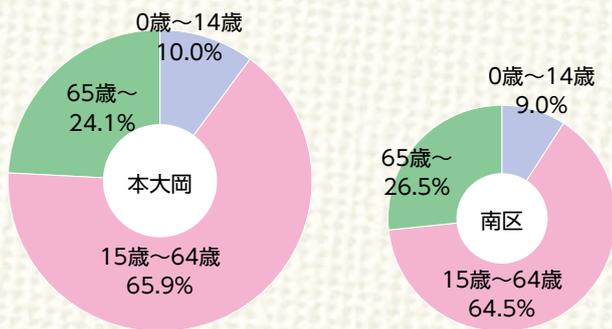
大岡1丁目(一部)・2丁目(一部) ●若宮町 ●通町 ●大橋町 ●中島町
弘明寺町 ●中里町

地区別計画スローガン

みんなで作ろう住みよいまち

データで見る本大岡地区

年齢3区分別人口割合



本大岡地区総人口：15,192人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1 人と人とのつながりがあるまち ～あいさつから始めよう！～

- 日常生活の中での、ご近所同士の気軽な支え合いや人と人とのつながりが広がる活動に取り組んでいきます。
- デジタル研究会と協力しスマホやパソコンで、いつでも地域のイベントや講座などの情報を見る事ができる情報発信を行います。



ラフォーレさくら ボッチャ交流会



デジタル研究会

2 お互いさまで見守りができるまち ～ご近所で広げよう！～

ちょっとした「助け合い」を通じて、身近な場所で見守りの輪が広がる、優しい街づくりを進めていきます。



さくら茶話会

3 毎日笑顔で健康なまち ～笑顔で広げよう～

まち全体の笑顔や元気につながる活動を考えていきます。



いきいき脳トレ 健康体操

大岡地区



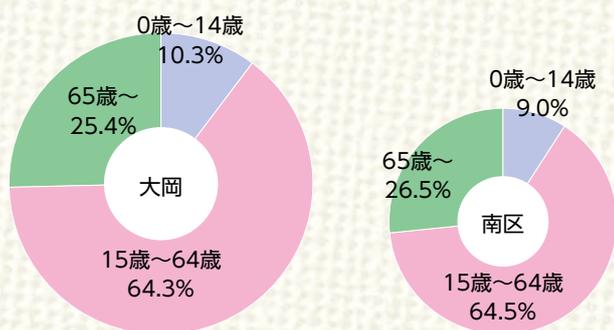
大岡 1丁目(一部)・2丁目(一部)・3～5丁目
 中里 1・2丁目・3丁目(一部)・4丁目(一部)

地区別計画スローガン

隣近所を大切にし、 安心して暮らせるまち

データで見る大岡地区

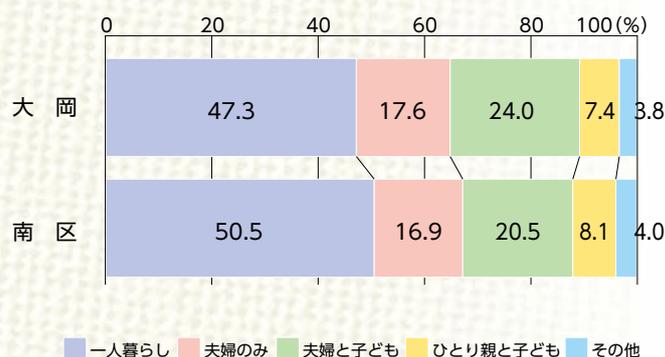
年齢3区分別人口割合



大岡地区総人口：19,807人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

日々のあいさつから、顔見知りの関係になろう

日常的な見守りやご近所同士のつながるきっかけとして、挨拶や声かけを地域全体で行い、顔見知りの関係づくりを進めます。



大岡公園ラジオ体操

2

気軽につながりあえる楽しみのひろばを作ろう

身近な公園や会館等を活用し、日頃から多世代でつながりあえる活動の場づくりを行い、仲間づくりや交流を進めます。



大岡健康福祉まつり



子育てサロンほっぺ

3

住民のパワーが活かせるきっかけを増やそう

住民一人ひとりが役割や生きがいを持って、地域活動に関わるきっかけを考えていきます。活動の担い手づくりを進めていきます。



大岡ふれあいサポート



高等学校

4

大岡のステキを伝え、まちへの関心を高めよう

大岡地区の魅力として、特に「活動」や「人」の情報を発信し、まちへの関心や地域活動への参加意欲を高める情報発信の方法を考えていきます。

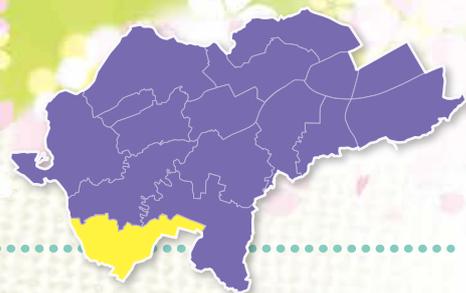


広報紙「社協だより」



音楽祭

別所地区



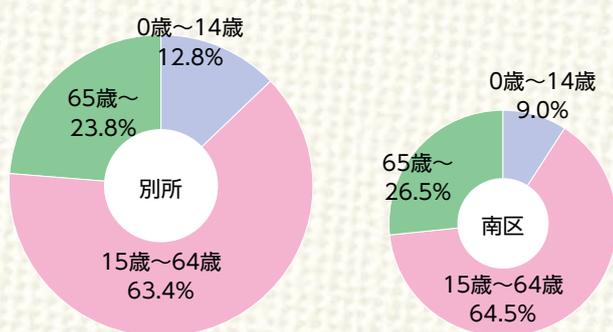
別所 1～5丁目・7丁目(一部) ● 別所中里台(一部)

地区別計画スローガン

ほほえみ
微笑が絶えない
 まち
ほっとする故郷

データで見る別所地区

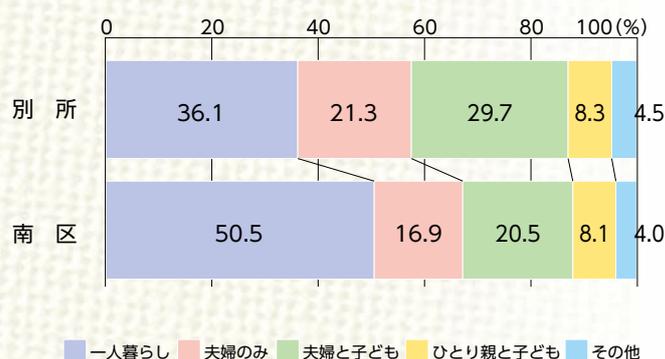
年齢3区分別人口割合



別所地区総人口：11,447人

出典：横浜市住民基本台帳（令和7年3月末現在）より算出

家族の類型別世帯の割合



出典：国勢調査データ（令和2年調査）より算出

※上記グラフ等の作成にあたっては、該当地区の区域に概ね対応する町丁目を抽出し集計を行っているため、集計結果はあくまで参考値です。

1

「元気？」と 声をかけあえるまち

世代や立場に関係なく、
ご近所同士で
挨拶を継続して行うことで、
顔見知りの関係を増やし、
地域での「**みまもりあい**」を広げます。



スマイルサポート別所



定期訪問事業

2

「自分らしく♪」 健康でいられるまち

誰もが参加しやすい
「ウォーキング」や「介護予防教室」
などの取組を通じて、
「**自分の健康**」「**多様性**」を**考える機会を充実**させていきます。



健康づくり教室



小中学校との交流「ボッチャ」体験

3

「知って良かった！」情報が届くまち

広報紙、チラシだけでなく **SNS を活用して**、
別所地区の様々な活動や防犯情報などの
住民に有意義な情報を発信し、
地域への関心を高めます。



広報誌「ふくし別所」

4

「つながろう★」活動の 輪が広がるまち

地区内の活動団体の連携・協働を進めることで、
子どもから高齢者まで、
誰もが気軽に参加できる場づくりを考えます。
様々な「**つながり**」を作り、
地域活動への**住民の参画**を進めます。



さくら広場（高齢者交流会）



サロンぬくもり



サロンみちくさ



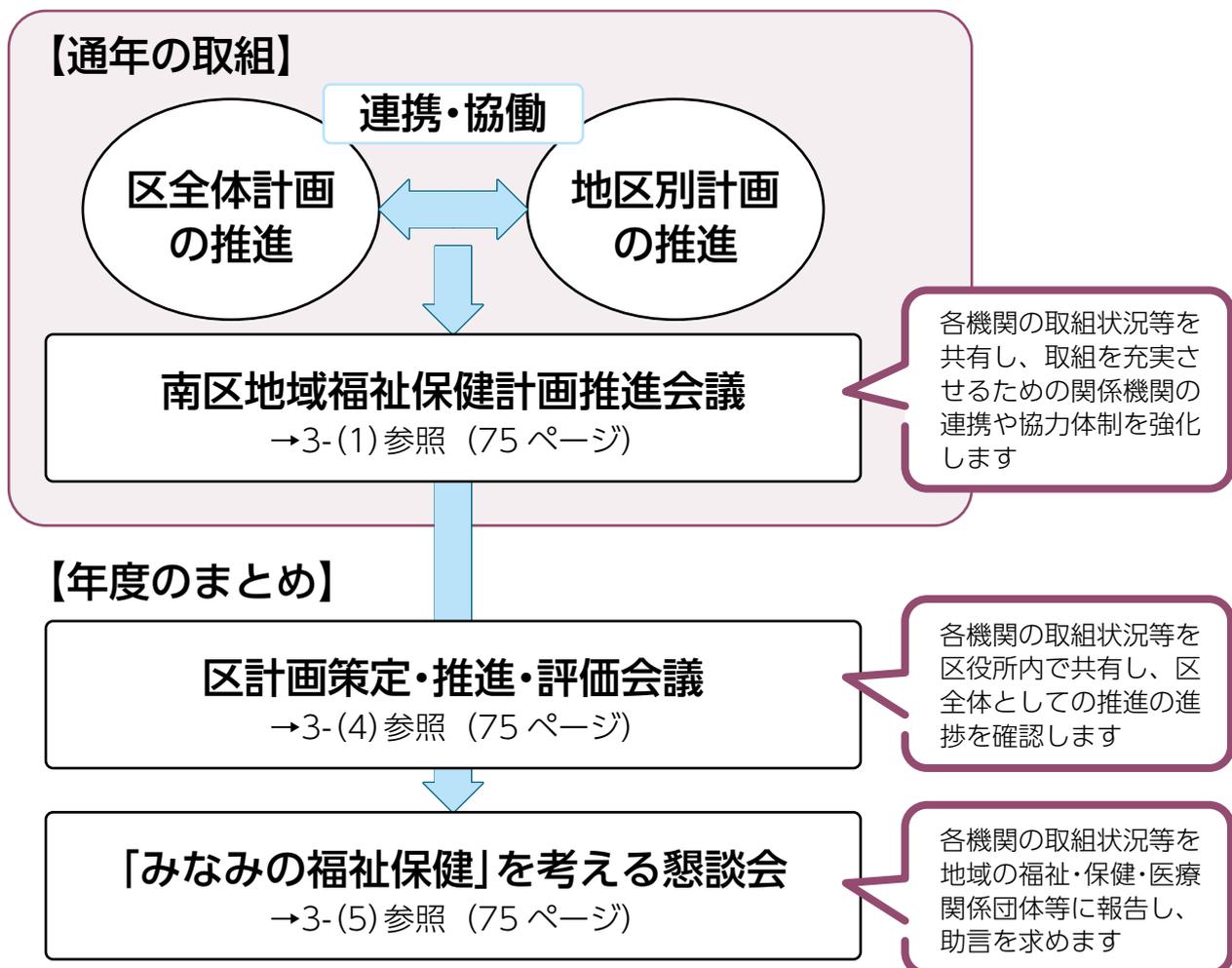
ほっこり別所

第5章 計画の推進体制

1 第5期計画（区全体計画）推進・第6期計画（区全体計画）策定スケジュール

令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
← 第5期計画期間 →				
南区地域福祉保健 計画推進会議 → 3-(1)参照 (75 ページ)		中間振り返り会議 → 3-(2)参照 (75 ページ)	第6期 南区地域福祉保健 計画策定会議 → 3-(3)参照 (75 ページ)	区民意見募集 第6期計画策定

2 第5期計画推進の体系図



3 各会議について

(1) 南区地域福祉保健計画推進会議【新規】

内 容：各機関の取組状況を共有し、区全体としての推進の進捗を確認します。
また取組を充実させるための、関係機関の連携や協力体制を強化します。
※ 必要に応じ、「テーマ別検討会」を開催します。

メンバー：区役所、区社協、ケアプラザ、福祉保健等の関係機関

開催時期：毎年6～12月頃（年1～2回）

(2) 中間振り返り会議

内 容：計画期間前半の進捗状況を確認するとともに、新たな課題や計画期間後半の取組計画等について整理します。

※ (1)の一部（テーマ別検討会）として実施します。

メンバー：(1)と同様

開催時期：令和10年度

(3) 第6期南区地域福祉保健計画策定会議

内 容：第6期計画の策定に向け、課題の整理や、推進の方向性・取組内容・推進体制等に関する検討を行います。

※ (1)の一部（テーマ別検討会）として実施します。

メンバー：(1)と同様

開催時期：令和11～12年度

(4) 区計画策定・推進・評価会議

内 容：各機関の取組状況を共有し、区全体としての推進の進捗を確認します。

メンバー：区役所各課

開催時期：毎年2月頃（年1回）

(5) 「みなみの福祉保健」を考える懇談会

内 容：区内の地域福祉保健関係事業等についてメンバーから助言を求めるとともに、保健・医療・福祉等の連携を強化します。

※地域福祉保健計画については、取組状況や推進会議等について報告し、意見を求めます。

メンバー：福祉・保健・医療関係団体等（三師会、地域活動団体、当事者団体、福祉保健関連施設、区社協、区役所等）

開催時期：毎年3月頃（年1回）

4 推進状況の振り返り

(1) 単年度の振り返り

毎年度、取組状況を各機関で振り返るとともに、各機関で取組状況を共有して翌年度以降の取組に反映させていきます。

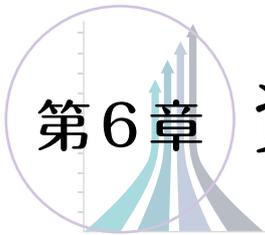
(2) 中間振り返り

中間振り返り会議（3-（2）参照）にて振り返りを行います。振り返りの内容は計画期間後半の取組に反映させるとともに、次期計画の策定につなげていきます。

(3) 計画期間全体の振り返り

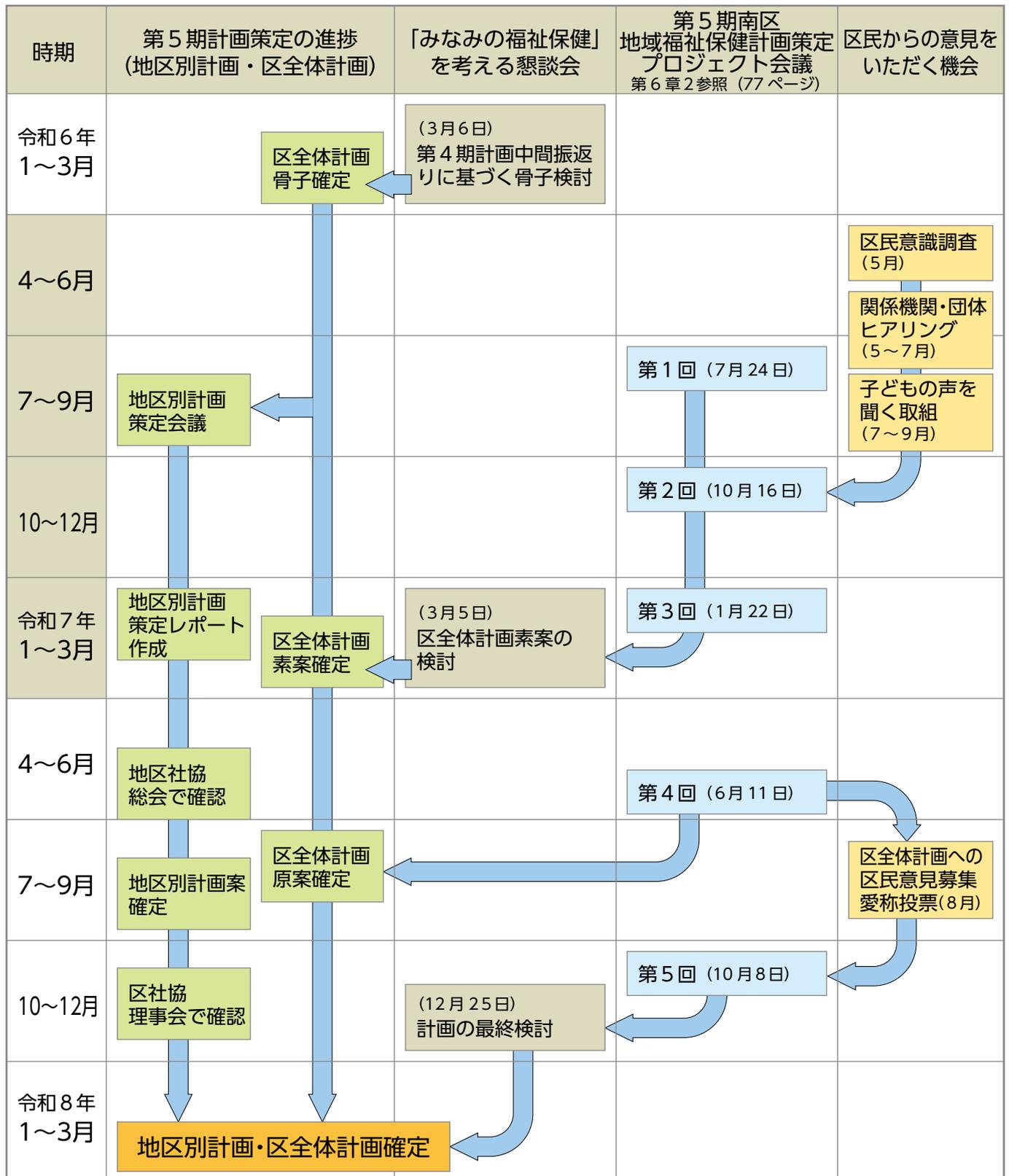
第6期南区地域福祉保健計画策定会議（3-（3）参照）にて振り返りを行います。振り返りの内容は、次期計画の策定・推進につなげていきます。

※振り返りにあたっては、目に見える成果だけではなく、取組のプロセスや関係機関との連携状況等についても重視します。



第6章 資料編

1 第5期南区地域福祉保健計画 策定の経緯



2 第5期南区地域福祉保健計画策定プロジェクト会議

令和6年度から令和7年度にかけて計5回開催し、第5期南区地域福祉保健計画(区全体計画)の内容について検討しました。

【メンバー】

南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹・南区基幹相談支援センター(地域活動ホームどんとこい・みなみ)・南区生活支援センターサザンウインド、区内ケアプラザ(大岡・浦舟・清水ヶ丘)、区社会福祉協議会、区役所(地域振興課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課、生活支援課、福祉保健課)

【アドバイザー】

株式会社メディコラボ研究所(つながるクリニック) 八森淳氏(医師)、大友路子氏(社会福祉士)

実施内容

日 程	テーマ	内 容
1回目 令和6年7月24日	目指す姿の確認	● 第5期計画最終年度(令和12年度)に向けたまちの姿をつくるための夢について検討
2回目 令和6年10月16日	区全体計画素案の方向性の検討	● 「多世代が地域活動に参加する」ための場・つなぐ方法について検討 孤立し支援を求めている区民・地域との接点のない区民が参加できるとよい場や、支援者がサポートできることについて検討
3回目 令和7年1月22日	区全体計画素案の方向性・取組計画の検討	● 素案(案)についての検討 ● 第5期計画での目標を実現するための取組について検討
4回目 令和7年6月11日	区全体計画原案の検討	● 区民意見募集の対象となる区全体計画原案について検討 ● 取組の柱2-1「多様性を理解し、交流する機会の創出」について検討
5回目 令和7年10月8日	区全体計画案の検討	● 区民意見募集・計画愛称投票結果を踏まえた修正事項について検討 ● 第5期計画の推進体制・第5期計画推進会議での検討テーマについて検討

3 関係機関・団体ヒアリング

第4期南区地域福祉保健計画を推進している12の関係機関・団体を対象に、日頃の活動で感じていることについてヒアリングを実施しました。

【実施時期】

令和6年5月～7月

【機関・団体名】

南区連合町内会長連絡協議会（区連会）、南区民生委員児童委員協議会（民児協）、南区保健活動推進員会、南区老人クラブ連合会、南区医師会、南区歯科医師会、南区薬剤師会、地区社会福祉協議会分科会（地区社協）、南区ボランティア連絡会、南区障がい児者団体連絡会、子どもの居場所づくりネットワーク、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ(多文化共生ラウンジ)

【主な意見】

目標1 安心・笑顔で支え合うまちづくり

- 昔から住んでいる人同士のつながりはあるが、新しく引っ越してきた人は顔が見えない。(保健活動推進員)
- 見守り対象が増えて、民生委員だけでは対応しきれない。(民児協)
- 行けば誰かに会えるという居場所があると、住民が集って楽しむことができる。(民児協)
- 多世代が顔見知りになれば、お互いに見守りができるようになる。(老人クラブ)
- UR生活支援アドバイザーは入居者の相談を受け、定期的に電話で様子を聞くなどしてくれている。(地区社協)
- 不登校支援も団体として考えていきたい。スクールソーシャルワーカーとの連携をより深めることが大切である。(子どもの居場所づくりネットワーク)

目標2 様々な人が交流し、地域活動に参加するまちづくり

- 地域の施設や団体と、顔の見える関係を作っていくことが大事。(区連会)
- カラオケなど趣味の集まりでは、その中で係を決めて運営している。(地区社協)
- ウォーキングなどの目的地が興味ある場所だと、今まで来ていない人が参加してくれる。(保健活動推進員)
- 薬局でフレイル予防の取組を実施するにあたり、ケアプラザとの連携を進めたい。(薬剤師会)
- チラシは多言語版作成、必要に応じて翻訳もしている。相手の立場に立った伝え方が必要。(多文化共生ラウンジ)
- 子どもたちの福祉体験や文化的活動の際に声をかけてもらえると、それぞれの活動を知ってもらうきっかけになり、ボランティア側のやりがいにつながる。(南区ボランティア連絡会)

目標3 地域活動を支える基盤づくり

- 新しい人に入れ替わると、その人が新しいつながりを持ってきてくれる。(保健活動推進員)
- 自治会町内会の役員は、年齢や介護、就労を理由に断られる。地域活動を長く続ける秘訣は「仲良くすること」。行事をやって充実感を共有すれば、仲良くなりモチベーションにもなる。(区連会)
- 高齢者にスマホを定期的に教えてくれる体制と、やりとりする相手があるとよい。(保健活動推進員)
- ボランティアセンターが区社協にあるが、たどり着かない人もいる。SNSなどで、気軽につながるようにできると良い。(南区ボランティア連絡会)

4 地区別計画策定会議

地区社会福祉協議会が中心となり、令和6年10月～11月に地区別計画策定会議を開催しました。第4期計画の取組について振り返り、第5期計画に向けた課題や取り組みたいことを話し合いました。地区ごとの主な意見をまとめました。

お三の宮	時代の変化とともに活動も変化していく必要がある。多世代が交流できるような地域づくりをしていきたい。	南永田 山王台	地域の活動が活発になるためには、役員が楽しいと思う活動をすること。初めての人を含めて誰もが参加できる活動とし、人とのつながりを増やしたい。
太田	お互いを気にかけて声を掛け合うことが大事。 ホームページをさらに機能させて活用していきたい。	北永田	情報発信は大切である。しかし、一方通行にならないよう、年代に応じた発信方法の工夫等を行い、お互いの想いが伝わるようにしたい。
太田東部	多世代が交流できて顔見知りになれるきっかけがあるとよい。 一人暮らしの人が輪に入りやすくなしてほしい。	永田 みなみ台	集まる場があることが大切。さらに参加のきっかけづくりとしては、声かけ、あいさつ、学校とのつながり、国際交流などが挙げられる。
寿東部	オートロックのワンルームマンションが増加し、地域とつながりのない住民の見守りが課題となっている。	六ツ川	町内会により活動に偏りがあるので、2～3の町会でまとまって活動ができるとよい。SNSを活用したい。
中村	祭りで地域が盛り上がり、活性化につながっている。外国籍の住民が増えているが、言語の壁や、価値観の相違を越え交流理解していきたい。	六ツ川大池	DXを災害時の安否確認、見守り、情報発信に活用したい。 今までやってきたことを大事にしていきたい。子どもの行事を増やしたい。
蒔田	ホームページにて行事の案内、地区社協・連合の取組等を情報発信している。計画を立てる段階で子ども会等からの意見も聞きたい。	本大岡	住民同士「顔が見える関係」が大切。あいさつの輪が広がると良い。デジタル研究会と協力しスマホ等で、いつでも催事内容を見ることができるようになりたい。
堀ノ内睦町	コロナ禍でLINEによる情報発信の工夫や活動見直しなど行った。多くの人に活動を知り、参加してもらえよう、対象者を絞った企画も考えていきたい。	大岡	ご近所のつながりをつくるのは、日々のあいさつから。大人が率先して行き、子ども世代にも浸透させていきたい。
井土ケ谷	近所同士仲が良いことは当たり前だったが、今は関係が希薄になっている。あいさつをすることで、つながりを大事にする地域にしていきたい。	別所	地区内には健康づくりや子育て世代の活動などがたくさんある。情報発信を充実させて、子育て世代にも関心を持ってもらい参加を促したい。

5 区民意見募集・計画愛称投票

第5期計画原案について、区民から広く意見を聞き、計画策定の参考とするために、区民意見募集を実施しました。併せて、区民に計画をより身近に感じていただくため、計画愛称投票を行いました。

計画愛称投票については、地域のイベント等に出向いてのシール投票などの取組も行うことで、幅広い区民の声が積極的に反映されるよう工夫しました。

実施期間：令和7年8月1日～8月29日（計画愛称投票は9月20日のイベントまで）

回答数：区民意見28件、計画愛称投票433件

いただいたご意見及び対応についてはこちら➡



6 子どもの声を聞く取組

「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」（令和6年3月・こども家庭庁事務連絡）を参考に、次世代の担い手である子ども・若者、子育て当事者等が意見を表明できる機会を積極的に取り入れ、計画の策定・推進等に反映できるよう取り組みました。

【実施内容】

イベントの機会を通じて、未就学児～高校生に「南区に住むみんながなかよくなるアイデア」を記載してもらいました。

【実施イベント】

	名称（会場）	実施日
1	うらふね納涼祭（浦舟複合福祉施設）	令和6年8月25日
2	レインボーフェスタ（どんとこい・みなみ）	令和6年9月21日
3	いきいきふれあい南なんデー（大岡健康プラザ）	令和6年10月6日



うらふね納涼祭

【実施結果】

多かった意見
あいさつをする（笑顔・元気・みんなで・ありがとうを言う）
話しかける（明るく・勇気をもって・ふわふわ言葉）
イベントをして交流する（おまつり・パーティー・きれいな街）
一緒に遊ぶ（同じことをする・楽しむ）

※ また、計画愛称投票（5を参照）では、子どもたちが参加する地域のイベント等に出向いてシール投票を行うなど、広く意見を聞く機会を設けました（令和7年8月～9月、計7回実施）。

7 南区区民意識調査

区民の生活環境に対する意識や区政への関心等を把握し、今後の区政運営の参考とすることを目的とした調査です（実施主体：南区区政推進課）。

実施期間：令和6年5月10日～5月31日

対象：南区内在住18歳以上の男女3,000人（うち外国籍：150人）

方法：【配布】郵送 【回答】郵送・インターネット

回答者総数：1,539通（うち外国籍回答：33通）

回答率：51.3%

調査項目：ご近所付き合い、地域、多文化共生、防災、子育て、健康、高齢者、障害児・者他



調査結果等の詳細はこちら

◆区役所以外の相談機関

地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように支援する相談窓口で、横浜市ではケアプラザと一部の特別養護老人ホームがその役割を担っています。介護・医療・福祉の専門職が連携し、介護保険利用の相談のほか、介護予防や生活の困りごと、権利擁護などの相談に幅広く対応します。困ったときはまず、お住まいの担当エリアのケアプラザへご相談ください。

相談受付時間は各ケアプラザにお問い合わせください。 ケアプラザの詳細はこちら➔



南区地域子育て支援拠点（はぐはぐの樹）

就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供などを行う子育て支援の拠点で、利用登録のうえ、無料で利用いただける施設です。

● 交流スペース

開館日時：火～土 9：30～16:00
所在地：南区弘明寺町158 カルム I 2 階
TEL & FAX ● 715-3728
最寄り駅：市営地下鉄・京浜急行線 弘明寺駅

● 子育て相談

横浜子育てパートナー
相談専用電話
TEL ● 721-8686
FAX ● 715-3815



南区基幹相談支援センター（地域活動ホーム どんとこい・みなみ）

障害のある人が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けていくために、日常生活や仕事などに関する様々な相談ができる地域の総合相談窓口です。

相談対応のほか、地域の人や関係機関などとも連携し、地域づくりに取り組んでいます。

相談受付時間：平日 9:00～17:00
所在地：南区中村町4-270-3
TEL ● 264-2866 FAX ● 264-2966
最寄り駅：市営地下鉄 阪東橋駅



精神障害者生活支援センター（南区生活支援センター サザンウインド）

地域で生活する精神障害者の社会復帰、自立、及び社会参加を促進することを目的としています。精神保健福祉士などによる日常生活相談、日常生活に必要な情報の提供、食事サービス・入浴サービス・洗濯サービスの提供、自主事業（レク・イベント等）、地域交流活動などを行っています。

所在地：南区新川町1-1
リーヴェルステージ横浜南2階
TEL & FAX ● 251-3991
最寄り駅：市営地下鉄 阪東橋駅／吉野町駅

● 居場所提供時間

月～金10:30～19:30 土9:30～15:30

● 電話相談時間

月～金12:00～13:00、13:30～19:30
土9:30～13:00、13:30～17:00





南区役所 福祉保健課

事業企画担当

南区浦舟町 2-33

電話 045-341-1183

FAX 045-341-1189

mn-jigyokikaku@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人

横浜市南区社会福祉協議会

南区浦舟町 3-46 浦舟複合福祉施設 8階

電話 045-260-2510

FAX 045-251-3264

tomony@minami-shakyo.jp

南区地域福祉保健計画ホームページはこちら➡



令和8年3月発行